文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」採択事業
高度リハビリテーション専門職の養成
ー長崎地域包括ケアシステムを活用したプログラムー
Training Program for Advanced Rehabilitation Professionals

— 平成29年度 —

事業報告書

長崎大学医学部保健学科

ごあいさつ

長崎大学医学部保健学科長
（事業推進責任者）
田中　悟郎

本事業は、文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム（チーム医療に貢献でき、高い指導能力を持ったメディカルスタッフの養成）」の長崎大学における事業で平成26年度から5年間の予定で実施しております。

現在、チーム医療の推進、地域包括ケアの深化、健康長寿社会・地域共生社会の実現などの多様な複雑化したニーズに対応できる実践的臨床能力を有する理学療法士・作業療法士を養成することが求められています。そのため、平成29年6月から厚生労働省において理学療法士・作業療法士学校養成施設カリキュラム等改善検討会が開催され、指定規則の改正（単位数増加、最低履修時間数の設定、臨床実習の在り方、専任教員の要件、その他）を検討し、平成30年度施行（32年度の入学生から適用）を目指し最終報告書のとりまとめが行われています。臨床実習の在り方については、実習施設や実習指導者の要件を見直すとともに臨床実習の構成や方法等にも踏み込み「実習生が診療チームの一員として加わり、臨床実習指導者の指導・監督の下で行う診療参加型臨床実習が望ましい」と明記される予定です。一方、平成29年度からは新しい介護予防事業として地域リハビリテーション活動支援事業が開始されました。これは地域における介護予防の取組を機能強化するために、通所、訪問、地域ケア会議、サービス担当者会議、住民運営の通いの場などへのリハビリテーション専門職の関与を促進するものです。

このような背景の下、本事業に求められる主な取組内容は、1）卒前・卒後の継続的な教育プログラム開発と教育指導体制の構築、2）臨床での教育指導者養成と大学教員・教育指導者の人材交流、3）地域医療にも貢献できる人材の養成、などです。

4年目の平成29年度の事業内容の概要は下記の通りでございます。

1）チーム医療実践教育・臨床実習推進プログラム

1～4年次まで段階的に配慮した、他学科・他学部の学生とのグループ討議やロールプレイなど課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び（アクティブ・ラーニング）を積極的に取り入れた共修授業を行うことにより、チーム医療の重要性を理解できる学生は確実に増加しています。

2）臨床指導者養成教育コース

本コースは平成29年4月から9月末まで6ヶ月間開講し、38名修了しました。カリキュラムの内容は、臨床実習関連やエビデンスに基づいた最新情報を提供するeラーニング及び集中講義、さらにOJT（On the job training）と実習モニタリングなどでした。

3）地域包括ケア人材養成コース

本コースは平成29年10月から平成30年3月まで6ヶ月間開講し、43名が修了しました。カリキュラムの内容は、地域包括ケアシステム、介護予防などに関するeラーニング及び集中講義、さらに実際の介護予防事業や地域ケアマネジメントを体験できる実習などでした。

以上、当初の計画通りプログラムを遂行できていると考えていますが、これもひとえに多くの関係機関・団体の皆さまのあたたかいご支援とご指導の賜物と心から御礼申し上げます。

次年度は本事業の最終年度になります。現在、平成31年度以降の事業の在り方や内容等について検討しているところでございます。今後も引き続き地域で高齢者・障害者の皆様の生活を包括的に支援できる人材を育成していく所存ですので、皆様のご理解とご支援を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

目次

ごあいさつ
長崎大学医学部保健学科長　田中　悟郎（事業推進責任者）

本事業の実施概要
事業概要 …… 7
組　　織 ……10

活動報告
チーム医療実践教育・臨床実習推進プログラム ……13
1．チーム医療実践教育プログラム ……14
1）学科内共修授業
2）他学科・他学部共修授業
2．臨床実習推進プログラム ……17
1）早期体験実習前セミナー
2）総合臨床実習前セミナー
3）総合臨床実習後セミナー
高度リハビリテーション専門職養成プログラム……21
1．臨床指導者養成教育コース ……21
1）平成29年度受講者募集期間
2）平成29年度応募者数
3）平成29年度受講者数
4）平成29年度受講者内訳
5）平成29年度臨床指導者養成教育コース開講期間
6）平成29年度修了者数
6）カリキュラム
7）コース内容紹介
9）平成29年度コース受講後アンケート調査結果
10）平成30年度に向けた課題と対応
11）平成30年度の予定
12）臨床実習教育ガイドブックについて
13）総括
2．地域包括ケア人材養成コース ……29
1）平成28年度コースアンケート調査結果
2）平成29年度に向けた課題と対応
3）平成29年度受講者募集期間
4）平成29年度応募者数
5）平成29年度受講者数
6）平成29年度地域包括人材養成コース開講期間
7）平成29年度修了者予定数
8）平成29年度受講者内訳
9）実習施設との調整

10）カリキュラム
11）集中講義（抜粋）
12）実習演習
13）総括
フォーラム ……39
1）高度リハビリテーション専門職の養成
大阪府立大学×長崎大学 合同フォーラム
2）臨床指導者養成教育コース推進フォーラム
成果報告 ……43
1）学会発表
広報活動 ……44
1）パンフレット
2）Web広報
3）オープンキャンパス

会 議 報 告
1．課題解決型高度医療人材養成プログラム推進委員会 ……49
2．臨床指導者養成教育コースカリキュラム委員会……53
3．臨床実習推進プログラムカリキュラム委員会……57
4．地域包括ケア人材養成コースカリキュラム委員会 ……57

平成30年度の事業計画 ……63

点検・評価
1．長崎臨床実習教育推進委員会 ……67
2．長崎地域包括ケア教育推進委員会 ……69
3．課題解決型高度医療人材養成プログラム評価委員会 ……71

総　　括
長崎大学保健学実践教育研究センター ……75
井口　茂（本事業プロジェクトリーダー）

資　　料
1．平成29年度臨床指導者養成教育コース
「OJT・実習モニタリング」様式
2．平成29年度地域包括ケア人材養成コース 実習様式
3．平成26年度事業カレンダー
4．平成27年度事業カレンダー
5．平成28年度事業カレンダー

本事業の実施概要

事業概要

【実施主体】 長崎大学医学部保健学科　理学療法学専攻・作業療法学専攻

【実施期間】 平成26年～平成30年度　5カ年間

【事業の概要と目的】

本事業は、長崎大学医学部保健学科がこれまで取り組んできたチーム医療教育（統合ケア関連科目等）と、長崎圏域における地域包括ケアネットワークを活かして、「チーム医療実践教育・臨床実習推進プログラム（学内教育）」と「高度リハビリテーション専門職養成プログラム（リカレント教育）」を実施する取り組みである。

本プログラムの目的は、質の高い臨床実習指導者、地域包括ケアをマネジメントできる高度な理学・作業療法士を輩出することにある。

【プログラム内容】

1．チーム医療実践教育・臨床実習推進プログラム（学内教育）

目的：①チーム医療を実践できる人材養成を目的とした学内教育の強化
②実習前教育において教員－臨床実習指導者－学生間の相互作用を図る

対象：理学･作業療法学専攻学生

内容：チーム医療実践教育プログラム：他学部との共修・演習、模擬カンファレンスの実施、三専攻での実習、模擬的ケア会議の実施の導入
臨床実習推進プログラム：早期体験実習、実習前セミナーの実施、介護保険関連施設での演習を導入

※上記プログラムに臨床教授・臨床実習指導者を登用

2．高度リハビリテーション専門職養成教育プログラム（リカレント教育）

⑴臨床指導者養成教育コース

目的：質の高い臨床実習指導者の養成と臨床教育の充実

対象：臨床実習教育に携わる理学療法士・作業療法士

内容：理学療法・作業療法の各疾患に関わるトピックス的内容、クリニカル・クラークシップ、コーチング論等、総時間120時間のコースを設定。
臨床教育実習においてOJTと実習モニタリングシステムを導入。

⑵地域包括ケア人材養成コース

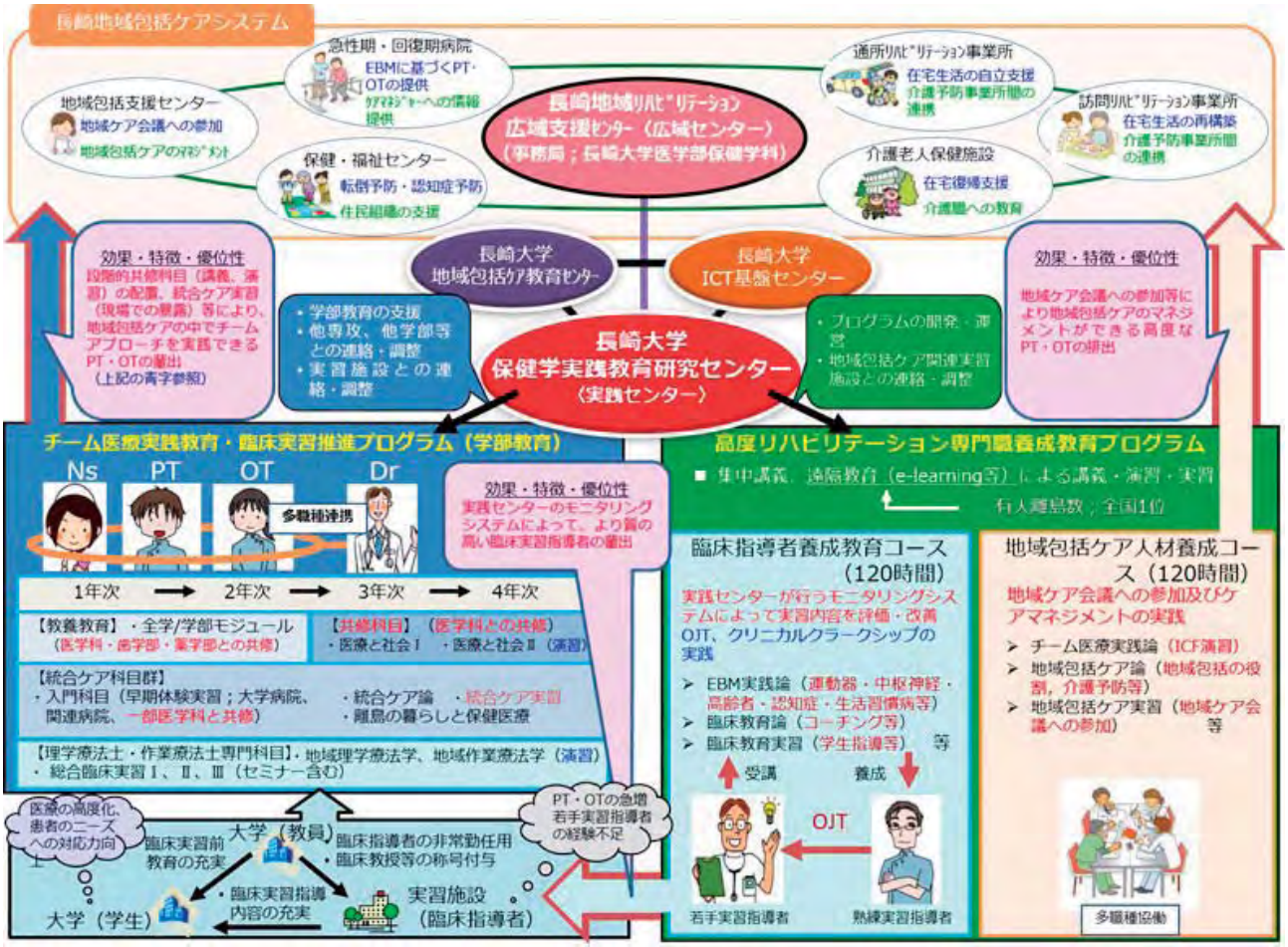
目的：地域包括ケアに寄与できる指導力を有する理学療法士・作業療法士の養成

対象：長崎県内の医療及び介護保険分野の理学療法士・作業療法士

内容：ICFを用いた生活障害の分析とケアマネジメント論、地域包括支援センターの理解、介護予防論、地域包括ケア実習（地域ケア会議・サービス担当者会議）等、総計120時間のコース設定。ケアマネジャー、地域包括支援センター職員、訪問リハビリテーションスタッフ等を講師として招聘。

高度リハビリテーション専門職の養成

― 長崎地域包括ケアシステムを活用したプログラム ―



5カ年間スケジュール

[平成26年度]

- 課題解決型高度医療人材養成プログラム推進委員会の設置及び事業教職員の配置
- 遠隔講義・遠隔会議のためのシステム環境整備
- 各委員会・部会の開催
- 臨床実習の課題分析のための調査と公表
- 地域包括ケアの課題分析のための調査と公表
- 本事業の公表及び推進のためのホームページの立ち上げ
- 各委員会委員による国内視察
- 本事業周知のためのパンフレット配布
- キックオフシンポジウムの開催

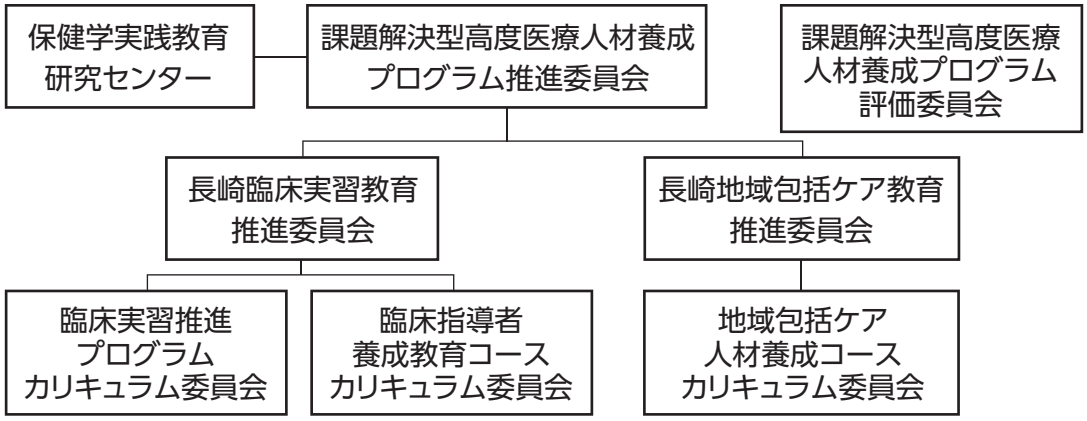
[平成27年度]
- 各委員会の開催
- チーム医療実践教育・臨床実習推進プログラムにおける改訂カリキュラムの確認・運用開始
- 臨床指導者養成教育コースのプログラム開発
- 地域包括ケア人材養成コースのプログラムの開発
- 各委員会委員による国内視察
- 高度リハビリテーション専門職の養成推進フォーラムの開催
- 臨床実習及び地域包括ケアフォーラムの開催
- 臨床指導者養成教育コース受講者の募集開始
- 地域包括ケア人材養成コース受講者の募集開始

[平成28年度]
- 各委員会の開催
- 臨床指導者養成教育コースのプログラム開始
- 地域包括ケア人材養成コースのプログラム開始
- 臨床実習及び地域包括ケアフォーラムの開催

[平成29年度]
- 各委員会の開催
- 臨床実習及び地域包括ケアフォーラムの開催
- 臨床実習教育ガイドブックの作成着手
- PT・OTのための地域包括ケアガイドブックの作成着手

[平成30年度]
- 各委員会の開催
- 臨床実習及び地域包括ケアフォーラムの開催
- 論文集や政策提言集の編纂･公開
- 臨床実習教育ガイドブックの作成
- PT・OTのための地域包括ケアガイドブックの作成
- 最終報告書作成

組　織



各委員会委員一覧（敬称略、順不同）　※ 委員長

◇課題解決型高度医療人材養成プログラム評価委員会　＊ 平成29年度より新規採用

【外部委員】塩塚　順(長崎県理学療法士協会)、沖 英一(長崎県作業療法士会)
田島 玲悟(長崎県長寿社会課)、小林　正義（信州大学）＊

【本　　学】※田中 悟郎、井口 茂、沖田 実、東 登志夫、磯 ふみ子、木下 文音
永田 康浩（地域包括ケア教育センター）、古賀 掲維（ICT基盤センター）

◇課題解決型高度医療人材養成プログラム推進委員会

【本　　学】※井口 茂、田中 悟郎、沖田 実、東 登志夫、磯 ふみ子、木下 文音

◇長崎臨床実習教育推進委員会

【外部委員】山下 潤一郎（長崎記念病院）、上村　真紀（道ノ尾病院）、賀村　肇（長崎医療技術専門学校）、
鎌田　秀一（日見中央病院）

【本　　学】※井口 茂、沖田 実、鶴崎 俊哉、中野 治郎、坂本 淳哉、田中 貴子、東 登志夫、
岩永 竜一郎、村田 潤、徳永 瑛子、磯 ふみ子、木下 文音

◇臨床実習推進プログラムカリキュラム委員会

【本　　学】※井口 茂、田中 貴子、平瀬 達哉、田中 浩二、徳永 瑛子、磯 ふみ子、木下 文音

◇臨床指導者養成教育コースカリキュラム委員会

【本　　学】※東 登志夫、井口 茂、沖田 実、神津 玲、岩永 竜一郎、磯 ふみ子

◇長崎地域包括ケア教育推進委員会

【外部委員】陣野 紀代美(長崎市医師会)、淡野 義長(長崎リハビリテーション病院)、
大町 由里（長崎市介護支援専門員連絡協議会）、辻 敏子（島原市地域包括支援センター）、
小泉 徹児（長崎県理学療法士協会）

【本　　学】※井口 茂 、小関 弘展、折口 智樹 、平瀬 達哉、東嶋 美佐子、中根 秀之、佐藤 克也、
田中 浩二 、磯 ふみ子、木下 文音

◇地域包括ケア人材養成コースカリキュラム委員会

【本　　学】※井口 茂、東嶋 美佐子、田中 浩二、平瀬 達哉、木下 文音

活動報告

チーム医療実践教育・臨床実習推進プログラム

－教育目標－

本プログラムは、保健学科三専攻及び他学部（医学科・歯学部・薬学部）との共修や演習を設けることで多職種連携にかかる教育を推進し、また早期体験実習の導入や総合臨床実習前後の臨床教授等による講義、学内セミナーへの臨床実習指導者の参加などにより臨床実習教育を強化することを目的とする。このことにより、理学療法士・作業療法士を目指す学生の職業的アイデンティティを形成する。

－到達目標－

1．自身が目指す医療専門職者（理学療法士・作業療法士）の役割を理解できる。
2．理学療法士・作業療法士として対象者及び実習指導者と適切なコミュニケーションや態度を取ることができる。
3．対象者を中心にしたチーム医療の実際を理解できる。
4．チーム医療を支える他医療専門職者（医師・看護師・理学療法士・作業療法士等）の役割を理解できる。
5．病気や障害を持った対象者の生活を理解し、生活課題に対するアセスメントができる。
6．理学療法・作業療法における評価－問題点抽出－プログラム立案－介入を通して効果検証やプログラムの妥当性について考察できる。

－プログラム評価－

本プログラムの効果を評価するために以下の評価を行うこととし、本年度より開始した。

1．理学療法士または作業療法士としてのアイデンティティの形成度評価

目　　的：本プログラムを通し、1～4年次（4年間）の職業的アイデンティティの形成がどのように進行するか経時的に評価する。

評 価 表：「職業的アイデンティティの形成度に関する質問紙」（藤井ら）に，チーム医療についての項目を追加した評価表を作成し使用することとした。

評価時期：以下の計6回実施する

1年次：入学時・基礎理学療法学実習Ⅰ（PT）／臨床実習Ⅰ（OT）終了後（2回）
2年次：基礎理学療法学実習Ⅱ（PT）／臨床実習Ⅱ（OT）終了後（1回）
3年次：総合臨床実習Ⅰ開始前（1回）
4年次：総合臨床実習Ⅲ終了後・卒業前（2回）

2．職業的モデル特性に関する質問紙

目　　的：職標的モデルの存在が職業的アイデンティティ形成に重要な役割を果たすとされる。学生が職業的モデルのどのような特性を重視するか、また、職業的モデルの存在と職業的アイデンティティ形成度の関連について評価する。

評 価 表：「職業的モデル特性に関する質問紙」（藤井ら）

評価時期：以下の計5回実施する

1年次：基礎理学療法学実習Ⅰ（PT）／臨床実習㈱（OT）終了後（1回）
2年次：基礎理学療法学実習Ⅱ（PT）／臨床実習㈱（OT）終了後（1回）
3年次：総合臨床実習Ⅰ終了後（1回）
4年次：総合臨床実習Ⅱ終了後・総合臨床実習㈱終了後（2回）

チーム医療実践教育プログラム

平成27年度より開始した本プログラムでは、各授業における授業評価において、チーム医療への意識向上が認められている。本年度はさらなる充実を図るため、適宜担当者会議を行い、授業内容を検討し、開講した。また、本事業終了後の継続を考慮し、本学医学部保健学科からの担当教員を増員し、共通認識を深めるとともに、今後の授業内容の検討も行っている。

1. チーム医療実践教育プログラム

1）学科内共修授業

保健学科における以下の統合ケア関連科目にて看護学専攻・理学療法学専攻・作業療法学専攻の共修を行った。

【入門科目】－早期病院見学－

対象学年：1年次・前期

日　　程：平成29年5月16日（火）

目　　的：早期見学実習を通してクライエントの療養生活とチーム医療の現状を理解する。

内　　容：長崎大学病院と学外10施設の病院でそれぞれ1日の見学実習を実施した。病棟・施設見学、リハビリテーション室の見学やクライエント及び病院スタッフとの会話等を体験した。

【統合ケア論】－模擬カンファレンス－

対象学年：3年次生・前期

（模擬カンファレンス　平成29年7月6日（木）・20日（木）各1コマ）

目　　的：高齢者等の生活に影響している要因とその相互作用をICF（国際生活機能分類）から理解し、ケアマネジメントの基礎的知識を身につける。さらに各職種の視点と役割を学び、多職種によるチームアプローチを理解する。

内　　容：各専攻の教員による講義により各職種の視点や役割を学習した。さらに、外部講師（医療ソーシャルワーカー及びケアマネジャー）より提供された事例について、外部講師と教員との模擬カンファレンスを通して、ICF（国際生活機能分類）を用いて評価し、事例の自立支援に向けた支援内容を考察した。

外部講師：田崎　志保　　先生（医療ソーシャルワーカー）（社会医療法人春回会　井上病院）

陣野　紀代美　先生（ケアマネジャー）（長崎市医師会）

模擬カンファレンスの様子

模擬カンファレンスの様子

【統合ケア実習】

日　　程：平成29年9月11日(月)～9月15日(金)　期間中4日間

対象学年：4年次生・前期

目　　的：看護学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻の学生がグループで実習を行い、事例の生活障害を理解し、ケアマネジメントを実践する。

内　　容：老人福祉施設・介護老人保健施設・訪問看護ステーション・リハビリテーション病院等にて三専攻の学生をグループ分けし、4日間の実習を行った。

【離島の暮らしと保健医療】

対象学年：4年次生・後期

目　　的：長崎県における島嶼部の地域医療を理解し、連携の在り方を学ぶとともに統合ケア実習での事例について討論し、生活機能障害の理解と支援の在り方を考察する。

内　　容：講義では、外部講師を招いて長崎県の離島や辺地における保健医療福祉の連携及び地域のネットワークについて学び、演習では統合ケア実習で体験した事例について、実習グループごとに担当教員との討論後、2～3の実習グループで構成したグループ討議、全体討議を行った。

2）他学科・他学部共修授業

医学科の未来医療研究人材養成拠点形成事業と共同で以下の科目で医学科・歯学部・薬学部・純心大学との共修を行った。

【入門科目】

対象学年：1年次生

日　　程：平成29年6月13日(火)及び20日(火)　各4コマ実施

共修学部：保健学科三専攻・医学科

目　　的：診療の補助を体験することで、医療職としての意識や専門科目への導入を目的とする。

内　　容：医学科・保健学科学生をグループ分けし、医療における診療の補助である血圧測定・超音波検査・心電図検査・車椅子操作・自助具などを体験した。

【医療と社会Ⅰ】

対象学年：2年次生

日　　程：平成29年10月18日(水)(1コマ)・25日(水)・11月1日(水)(各2コマ)

共修学部：保健学科三専攻・医学科・長崎純心大学現代福祉学科及び人間心理学科

目　　的：学習背景の異なる大学及び学科が医療・福祉系の枠を超えて共修の学びの場を通して、将来の多職種連携に繋がる医療と保健と福祉の視点を養う。

内　　容：医学科・保健学科・長崎純心大学の学生をグループ分けし、退院後の生活支援、生活習慣病、終末期、在宅生活の困難例等の模擬的4事例について、生活障害の評価及び支援内容について討議した。

【離島の暮らしと保健医療】

対象学生：4年次生

日　　程：平成29年10月16日(月)・25日(水)　2コマ

共修学部：保健学科三専攻・医学科・歯学部・薬学部

目　　的：学習背景の異なる学部・学科が共修の学びの場を通して、将来の多職種連携に繋がる医療と保健と福祉の視点を養うとともに各医療職種の役割を学ぶ。

内　　容：医学科・歯学部・薬学部・保健学科の学生をグループ分けし、3事例を模擬的に提示し、各グループ1事例について退院前カンファレンスをロールプレイとして実施した。退院後の生活障害、医療的リスクを評価するとともに支援内容について討議した。

2. 臨床実習推進プログラム

1）早期体験実習前セミナー

早期体験実習を控えた理学・作業療法学専攻1・2年次を対象に、「臨床実習における接遇・コミュニケーション」について、本学臨床教授による講義を行った。

【作業療法学専攻】

日　時：平成29年7月25日(火)9：30～11：00

対　象：作業療法学専攻1・2年次生

講　師：医療法人栄寿会　真珠園療養所　福田健一郎　先生

【理学療法学専攻】

日　時：平成30年1月25日(木)16：40～18：10

対　象：理学療法学専攻1・2年次生

講　師：日本赤十字社長崎原爆病院　リハビリテーション科　吉田佳弘　先生

2）総合臨床実習前セミナー

総合臨床実習を控えた理学・作業療法学専攻3年次を対象に、「臨床実習における心構えと学習方法」について、本学臨床教授による講義を行った。

日　時：平成29年12月18日(月)16：10～17：40

対　象：理学・作業療法学専攻3年次生

講　師：長崎記念病院　山下　潤一郎　先生

3）総合臨床実習後セミナー

理学・作業療法学専攻3・4年次を対象とした総合臨床実習後の学内セミナーに、臨床実習指導者の先生方にもご参加いただき、「学生」－「教員」－「臨床実習指導者」の相互連携を図った。

【理学療法学専攻】

・総合臨床実習Ⅱ後セミナー

日　時：平成29年6月28・29日(グループ討議)・7月4日(全体討論)

参加者：11施設15名(長崎大学病院，十善会病院，日本赤十字社長崎原爆病院，長崎病院，長崎記念病院，長崎みなとメディカルセンター，長崎百合野病院，済生会長崎病院，長崎北病院，井上病院，長崎市障害福祉センター)

・総合臨床実習Ⅲ後セミナー

日　時：平成29年8月30日(グループ討議)、9月4日(全体討議)

参加者：4施設6名(長崎大学病院、長崎記念病院、重工記念病院、諫早総合病院)

・総合臨床実習Ⅰ後セミナー

日　時：平成30年2月13日(グループ討議)、2月19日(全体討議)

参加者：7施設8名(長崎大学病院，長崎記念病院，長崎みなとメディカルセンター，長崎百合野病院，済生会長崎病院，田上病院，和仁会病院)

【作業療法学専攻】

・総合臨床実習Ⅱ後セミナー

日　時：平成29年6月27日（身体障害領域）・28日（精神障害領域）・29日（身体障害領域）

参加者：5施設5名（可也病院，西海病院，長崎大学病院，長崎北病院，日見中央病院）

・総合臨床実習Ⅲ後セミナー

日　時：平成29年8月29日（身体障害領域）・31日（精神障害領域）・9月1日（発達障害領域）

参加者：5施設5名（和仁会病院，長崎リハビリテーション病院，長崎みなとメディカルセンター，田川療養所，みさかえの園総合発達医療福祉センターむつみの家）

・総合臨床実習Ⅰ後セミナー

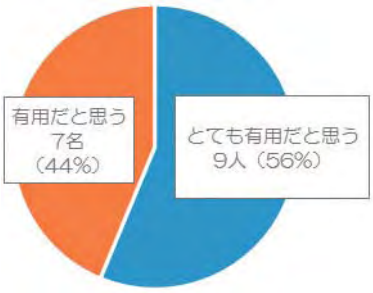
日　時：平成30年2月13日（精神障害領域）・15日（身体障害領域）・16日（発達障害領域）

参加者：2施設3名（長崎大学病院，可也病院）

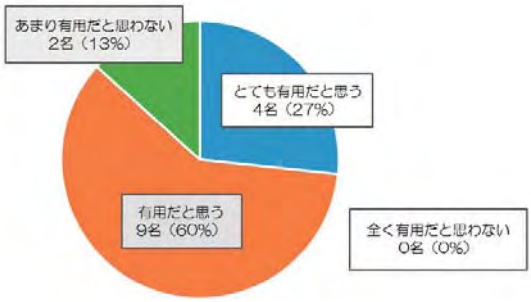
・総合臨床実習後学内セミナーの有用性に関するアンケート結果

①学生対象（n=31）

【理学療法学専攻】（n=16）

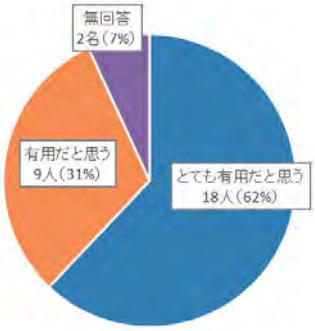


【作業療法学専攻】（n=15）

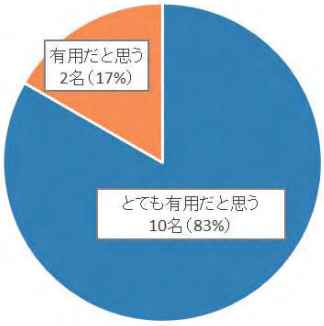


②臨床実習指導者（n=41）

【理学療法士】（n=29）



【作業療法士】（n=12）



総　括

保健学実践教育研究センター　井口　茂

チーム医療実践教育・臨床実習推進プログラムは学内教育の強化を目的とし、他学部や他専攻との共修科目の推進と1年次からの臨床実習教育に向けた取り組みです。

チーム医療実践教育プログラムでは、昨年度と同様「統合ケア科目群」の中に医療・福祉系の他大学・他学部との共修を実施しました。今年度、2年次に開講した他大学共修科目の授業評価において、各学生の専攻の理解や医療と福祉の仕組みの理解が向上し、チームアプローチにおける他職種の役割や理解につながっているものと思います。また、4年次の医学科・歯学部・薬学部との共修では、退院時カンファレンスを模擬的に実施し、各学科における専門的知識の共有の重要性を学んだものと思います。

臨床実習推進プログラムでも昨年度と同様に、理学・作業療法学専攻共同で1・2年次の早期体験及び3年次からの総合臨床実習の実施前後にセミナーを実施しました。また、総合臨床実習後セミナーでは臨床実習指導者の参加が定着しつつあり、学内教育と実習教育の連携が強化されているものと思います。

平成28年度末に学内に臨床実習に関わるワーキングを立ち上げ、様々な議論がなされ、本学の°臨床実習の改革への取り組みがなされつつあるものと思います。

高度リハビリテーション専門職養成プログラム

1．臨床指導者養成教育コース

－対　　象－

臨床実習教育に携わる理学療法士・作業療法士

－教育目標－

本プログラムは、eラーニングと集中講義を併用したリカレントプログラムによって、実習指導者に対して、最新の医療・保健情報やクリニカル・クラークシップやコーチングを含む臨床実習教育関連情報を教授することによって、養成施設と連携しながら学生に対して主体的な臨床教育を実践できる人材を養成することを目標とする。

－到達目標－

1. 臨床実習指導者としての役割を理解できる。
2. 臨床実習指導者に求められるリハビリテーションの最新知識を習得する。
3. 臨床実習の教育目標に向けて、適切な臨床実習指導計画を立案することができる。
4. 学生の特性を理解した上で、適切な助言・指導を行うことができる。
5. 臨床実習において部門責任者やその他のスタッフと共通の目標、問題意識を持って行動することができる。
6. 職場内における臨床実習教育で中核的な役割を果たすことができる。

－カリキュラム－

理学療法及び作業療法の臨床教育方法の教授とそれを実践するOJT・実習モニタリング、臨床実習に関わる各疾患のトピックス的内容から構成した総時間120時間のコースである。

- 「臨床実習指導関連」：eラーニングと集中講義（56時間）
- 「OJT・実習モニタリング」：演習、職場内指導者によるOJT、教員によるモニタリング（24時間）
- 「情報アップデート」：eラーニングと集中講義（40時間）

1．平成29年度臨床指導者養成教育コースについて

【受講者募集期間】

平成29年1月23日～2月3日

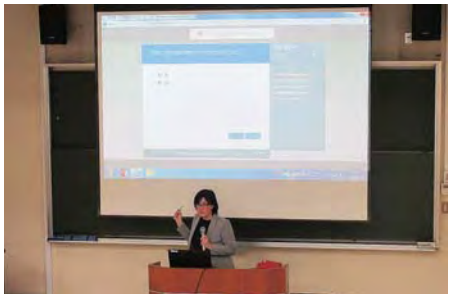
【応募者数】

43名（募集人員40名）

【受講者数】

40名（理学療法士24名，作業療法士16名）

※応募者数が定員を超過したため、臨床指導者養成教育コースカリキュラム委員会で選考した。



オリエンテーションの様子（平成29年4月1日）

【受講者内訳】

		理学療法士	作業療法士
受講者数（男性／女性）（名）		24（20／4）	16（9／7）
年齢（名）	20歳代	12	6
	30歳代	9	8
	40歳代	3	2
	50歳代	0	0
経験年数（名）	0－ 4年	5	3
	5－ 9年	14	9
	10－14年	4	2
	15－19年	1	2
	20年－	0	0
施設数（施設） （うち本学臨床実習施設が占める割合）		20（70.0%）	14（85.7%）

【コース開講期間】
平成29年4月1日～9月30日

【修了者数】
38名（理学療法士22名、作業療法士16名）（平成28年度受入者3名を含む）

【カリキュラム】

〈臨床実習指導関連／OJT・実習モニタリング〉 臨床実習教育論Ⅰと臨床実習教育論Ⅱは、原則、OJT・実習モニタリング開始前に受講してください。

	開講時期	講座名	内容	時間		科目名	講義形式	講師（*：長崎大学医学部保健学科）		備考
1	4－6月	臨床実習教育論Ⅰ	臨床実習指導に必要な知識と技術を理解する	16		臨床実習指導総論	eラーニング	東 登志夫*		
						臨床実習における教育目標と教育評価		岩永 竜一郎*		
						教育方法1－各教育目標分類における教育方法		田中 浩二*		
						教育方法2－行動変容について		村田 潤*		
						教育方法3－EBPT／EBOT教育について		田中 貴子*		
						臨床実習の管理・運営1－インフォームドコンセント		徳永 瑛子*		
						臨床実習の管理・運営2－リスク管理		神津 玲*		
						臨床実習の管理・運営3－個人情報保護とハラスメント		磯 ふみ子*		
2	4－6月	臨床実習教育論Ⅱ ※1	臨床実習施設の特性に合わせた指導方法を理解するとともに、他領域の特性についても学ぶ。また、臨床実習指導を行う上で必要となる管理・運営について学ぶ。	10	6	臨床実習指導の進め方について	eラーニング	PT	沖田 実*	PT・OT別開講
								OT	東 登志夫*	
						症例レポート作成／症例報告の仕方		東嶋 美佐子*		
						ICFについて		田中 悟郎*／岩永 竜一郎*		
					4 2科目以上選択	実習施設の特性と指導のポイント1－急性期病院		PT	吉田 佳弘（長崎原爆病院）	PT・OT別開講
								OT	大久保 篤史（長崎大学病院）	
						実習施設の特性と指導のポイント2－回復期病院		PT	山下 潤一郎（長崎記念病院）	PT・OT別開講
								OT	沖 英一（和仁会病院）	
						実習施設の特性と指導のポイント3－一般病院		PT	塩塚 順（虹ヶ丘病院）	PT・OT別開講
								OT	佐賀里 昭（長崎原爆病院）	
						実習施設の特性と指導のポイント4－維持期施設		PT	秀嶋 敏和（介護老人保健施設 恵仁荘）	PT・OT別開講
								OT	松本 康宏（介護老人保健施設 三原の園）	
						実習施設の特性と指導のポイント5－精神障害領域		上村 真紀（道ノ尾病院）		PT・OT共通
						実習施設の特性と指導のポイント6－発達障害領域		吉村 克己（佐世保市こども発達センター）		PT・OT共通
3	4月	コーチング論 ※2	コーチングの理論を理解し、演習を通して実際の臨床実習場面での活用方法を学ぶ	15		コーチング論	講義・演習	島袋 十史樹 （プラスコミュニケーションズ代表）		
4	4月	クリニカル・クラークシップ論 ※3	クリニカルクラークシップの概念を理解し、演習を通して実際の臨床実習指導場面での活用方法を学ぶ	15		クリニカルクラークシップ論	講義・演習	中川 法一（日本リハビリテーション臨床教育研究会　代表理事・会長） 日髙 正巳（同会　副会長）		
5	5-9月	OJT・実習モニタリング ※4		24		セルフモニタリング	モニタリング			
						演習	演習			
				80						

（1時間＝45分）

〈情報アップデート〉

	開講時期	講座名	内容	時間		科目名	講義形式	講師（＊：長崎大学医学部保健学科）	備考
1	4－9月	機能障害科学特論	すべての疾患に共通してみられる機能障害の病態や発生メカニズムに関する最新知見を理解する	8		痛み	eラーニング	坂本 淳哉＊	
						関節可動域制限		沖田 実＊	
						筋力低下		中野 治郎＊	
2	4－9月	リハビリテーション研究法特論	臨床現場の問題解決に必要な研究方法論を学び、EBM実践のための基礎的知識を理解する	8		研究方法概論		神津 玲＊	
						基礎研究		沖田 実＊／東 登志夫＊	
						臨床研究		神津 玲＊／田中 貴子＊	
						メタアナリシスとシステマティックレビュー		中野 治郎＊	
3	4－9月	EBM実践特論 ※5	各自のclinical questionを明らかにするため、メタアナリシスの一連の過程を演習し、その成果をまとめる	24 3講座以上選択	8	（内容） 課題学習、電子メール等による遠隔指導に基づくメタアナリシスの演習	課題学習／遠隔指導	中野 治郎＊	
		機能解剖学特論 ※6	グループに分かれ、献体の見学実習を行い、臨床の課題解決につなげる		8	（内容） 肉眼解剖観察実習	集中講義	坂本 淳哉＊	
		ペインリハビリテーション トピックス	国民病ともいわれる慢性痛の対策としてのリハビリテーションの最新知見とそのエビデンスに関して理解を深める		8	痛みの評価	eラーニング	沖田 実＊	
						急性痛に対するリハビリテーション		中野 治郎＊	
						慢性痛に対するリハビリテーション		坂本 淳哉＊	
						がん性疼痛に対するリハビリテーション		石井 瞬（長崎大学病院）	
		内部障害リハビリテーション トピックス	呼吸・循環系、代謝系、がんなど内部障害系疾患のリハビリテーションに関する最新知見とそのエビデンスに関して理解を深める		8	呼吸器系疾患に対するリハビリテーション	eラーニング	花田 匡利（長崎大学病院）／田中 貴子＊	
						循環器系疾患に対するリハビリテーション		森本 陽介（長崎大学病院）／村田 潤＊	
						代謝系疾患に対するリハビリテーション		及川 真人（長崎大学病院）	
						摂食・嚥下障害に対するリハビリテーション		東嶋 美佐子＊	
		精神・神経障害 リハビリテーショントピックス	脳血管障害や神経・筋疾患、精神疾患、認知症などの精神・神経障害に対するリハビリテーションに関する最新知見とそのエビデンスに関して理解を深める		8	脳血管疾患に対するリハビリテーション1－総論	eラーニング	東 登志夫＊	
						脳血管疾患に対するリハビリテーション2－高次脳機能障害		山田 麻和（長崎北病院）	
						神経・筋疾患に対するリハビリテーション		佐藤 克也＊	
						精神疾患に対するリハビリテーション		田中 悟郎＊／中根 秀之＊	
		高齢障害リハビリテーション トピックス	高齢者が抱える身体的諸問題に対するリハビリテーションの最新知見とそのエビデンスについて理解を深める		8	ロコモーティブシンドロームに対するリハビリテーション	eラーニング	小関 弘展＊	
						サルコペニアに対するとリハビリテーション		中原 和美（熊本保健科学大学）／平瀬 達哉＊	
						認知症に対するリハビリテーション		田中 浩二＊	
						誤嚥性肺炎に対するリハビリテーション		神津 玲＊	
		発達障害リハビリテーション トピックス	脳性麻痺をはじめとした運動発達障害、自閉症、学習障害などに対するリハビリテーションに関する最新知見とそのエビデンスに関して理解を深める		8	胎児・新生児シミュレーション研究からみた発達とその応用	eラーニング	鶴崎 俊哉＊	
						脳科学からみた発達とその応用		鶴崎 俊哉＊	
						自閉スペクトラム症児者へのリハビリテーション		岩永 竜一郎＊／徳永 瑛子＊	
						特別支援教育・保育とリハビリテーション		岩永 竜一郎＊／徳永 瑛子＊	
				40		※必修16　選択24			

（1時間＝45分）

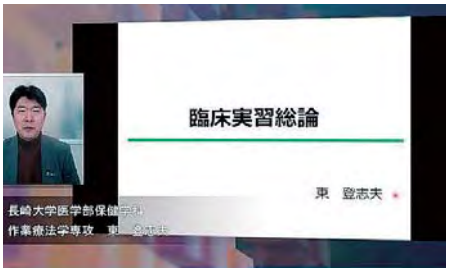
【コース内容紹介】

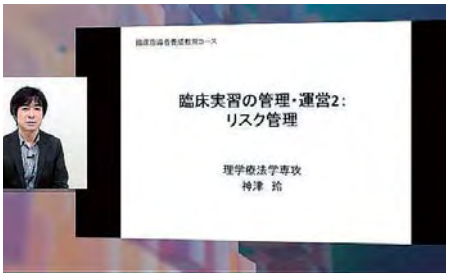
① 臨床実習指導関連及びOJT・実習モニタリング科目

＜eラーニング講義＞（抜粋）

開講期間：4月1日～6月30日

内　　容：臨床実習指導に必要な知識と技術を理解する。臨床実習施設の特性に合わせた指導方法を理解するとともに、他領域の特性についても学ぶ。また、臨床実習指導を行なう上で必要となる管理・運営について学ぶ。





＜集中講義＞

○コーチング論

開催日時：平成29年4月1日（土）・2日（日）

講　　師：島袋　十史樹　先生（プラスコミュニケーションズ代表）

内　　容：コーチングの理論を理解し、演習を通して実際の臨床実習場面での活用方法を学ぶ

○クリニカル・クラークシップ論

開催日時：平成29年4月22日（土）・23日（日）

講　　師：中川　法一　先生（一般社団法人日本リハビリテーション臨床教育研究会　会長）

日髙　正巳　先生（一般社団法人日本リハビリテーション臨床教育研究会　副会長）

内　　容：クリニカル・クラークシップの概念を理解し、演習を通して実際の臨床実習指導場面での活用方法を学ぶ

＜OJT・実習モニタリング＞(資料)
開講時期：セルフモニタリング　4～9月
演　　習：平成29年9月16日(土)

OJT・実習モニタリング演習の様子

② 情報アップデート
＜eラーニング講義＞(抜粋)
受講期間：4月1日～9月30日

＜実習・演習科目＞(選択科目)

- 機能解剖学特論
  開催日時：平成29年6月24日(土)
  担当教員：坂本　淳哉(長崎大学医学部保健学科)
  内　　容：臨床における課題解決を目的とした検体観察を実施する。課題解決のための観察計画立案後、長崎大学医学部肉眼解剖学実習室にて検体観察を実施した。
- EBM実践特論
  開催日時：平成29年4月～9月
  担当教員：中野　治郎(長崎大学医学部保健学科)
  内　　容：システマティックレビューの理解を深め、リハビリテーションに関するエビデンスの情報収集を可能とすることによりEBMの実践を促進することを目的とし、受講者希望のテーマに関するRCT研究の論文を収集し、メタアナライシスの一連の作業を演習した。具体的には、予備情報収集、テーマ選定、論文収集、データ抽出、メタアナライシス実行をメール等の遠隔指導及び定期的に行う大学でのミーティングでの指導にて実施した。

【コース受講後アンケート調査結果】

平成29年度の受講者に対する受講後のアンケート調査結果を以下に報告する。

カリキュラム全体及びカリキュラムを構成している臨床実習教育論、情報アップデート、集中講義については、「大変よかった」・「よかった」が多く、昨年度と同様に満足度は高かった。受講システムにおいて、「あまりよくなかった」・「良くなかった」と回答した受講者が4名で、昨年度より減少し、eラーニング視聴に改善の成果があったものの、操作時の不具合を指摘するコメントが寄せられ、ハード・ソフト両面の対応が求められているものと思われた（図1）。

OJT・実習モニタリングに対する感想では、全体的に満足度は高く、特に教員とのやり取りが高い傾向にあり、養成校教員の役割の大きさが伺われた。一方、OJT指導者の有用性については、「あまり役に立たなかった」が4名みられ、コメントとして「OJT指導者の役割が不明確」との指摘もあり、臨床実習に対する組織的取り組みが課題であることが伺われた（図2）。

OJT指導者に対するアンケート結果を図3に示す。実習指導者及び学生との関わりについて、「臨床実習の目標や方針等を部署全体で共有できたか」や「必要に応じて実習生に対して助言や支援を行ったか」、「教員からの意見・提案等を実習指導者と共有できたか」の項目で「あまりできなかった」の回答が多く、職場内での実習指導に対する共通認識の難しさが伺われた。

今回のアンケート結果より、臨床実習における学生指導について、組織的な関わりの重要性と指導体制の構築が課題であり、その部分も教員と共有すべきと考える。

【平成30年度に向けた課題と対応】

臨床指導者養成教育コースカリキュラム委員会にて、受講者を対象としたアンケート調査や長崎臨床実習教育推進委員会委員及び学内教員の意見をもとに、平成30年度に向けた課題と対応を検討した。

① カリキュラムについて

コース内容については、良好な意見が多くを占めており、現行のカリキュラムですすめていくこととなった。次年度が最終年度であり、集中講義、OJT・実習モニタリングについては、確実に受講していただけるよう募集要項の出願資格に追記するなどの対応を行った。受講できなかった場合の対応についても併せて検討を行った。

② eラーニング講義・課題内容の確認・修正等について

各講師に担当講義及び担当講義の課題内容について確認を依頼し、変更の必要があるものに関しては、再撮影、修正等を行なった。平成29年度より開始した科目ごとの講義評価は継続して実施することとなった。

③ 「OJT・実習モニタリング」様式の確認・修正等について

診療参加型実習を導入している施設においては、一部文言が実習形態と合わないとの意見が挙がっていたため、必要に応じて文言の修正及び注釈の追記などを行った。

【平成30年度臨床指導者養成教育コース開講に向けた今後のスケジュール】

平成30年度募集要項発送　：平成29年12月5日
平成30年度受講者募集期間：平成30年1月22日～2月2日
募集定員　　：40名
※ 平成30年度コースオリエンテーションを4月7日開催予定

【臨床実習教育ガイドブックについて】

① 配布対象者

理学療法士、作業療法士

② 内容

実習オリエンテーションに関する内容をOJT・実習モニタリング様式に合せた形に沿って作成し、今後の臨床実習場面でも活用できるよう、実習モニタリング様式を添付したガイドブックを作成予定。

③　スケジュール

平成29年	
～12月	内容の具体的事項立て、役割分担
平成30年	
～1月	ガイドブックのサイズ・ページ数などの概要を検討
～3月	具体的な掲載内容（文言、図表・資料等）を決定しガイドブック作成に着手
～10月	内容の確認・修正
～11月	発注
～12月	完成・関係機関等へ配布

④　素案

項　　目	備　　考
1．実習受け入れ準備について	PT・OT共通事項
2．オリエンテーションについて	
3．養成校教員との連携について	
4．実習生への指導者の対応について	
5．実習生への事例に関する指導について	
6．理学療法・作業療法評価の実施に対する指導について	PT ／ OT別事項
7．理学療法・作業療法実施に対する指導について	
8．CCS導入に向けて	PT・OT共通事項

総　括

臨床指導者養成教育コースカリキュラム委員長　東　登志夫

養成施設と連携しながら主体的な臨床教育を実践できる人材を養成することを目的とした本コースも今年で2年目を迎えました。今年度も、受講定員40名に対して43名からの応募があり、最終的に40名（PT24名、OT16名）の方に受講して頂きました。昨年度の課題として挙げられたいくつかの問題に対してはコース開始前に可能な限りの対策を行いました。具体的にはeラーニングの受講中に一定時間操作しないでいると講義が最初に戻ってしまう問題に関しては、特に講義時間が長い講義に関してコンテンツファイルを複数に分割するなどの対策を行いました。また、OJT実習モニタリングに関しても、昨年度の手書きによる実習内容の記載に関しては記載枠の不足や提出作業の煩雑さ等の意見が多かったため、記載手段様式の変更・提出方法の変更を行いました。これらの改善点の結果、昨年度と同様の問い合わせや意見は少なくすることができ、受講後アンケートにおいても概ね好評の回答を得ることができように思います。

昨年同様、今年度も非常に積極的な受講者が多く、集中講義等でも他の受講者と活発な意見交換をする姿が見られました。またOJT実習モニタリングにおいても、OJT指導者と受講者間のやりとり等により、実習施設全体での教育体制の構築が促進されているように感じました。

最終的に今年度は、業務の都合上で一部の科目が受講できなかった5名を除く35名に、昨年度受講者で今年度履修が完了した3名を加えた計38名が本コースを修了いたしました。次年度はいよいよ文科省からの助成を受けての最終年度となります。今年度挙がったいくつかの課題に対応した対策を行い、さらにコース内容の充実を図りたいと考えています。また同時に臨床実習ガイドブックの作成も平行して行うとともに、GP終了後の事業継続についても、具体案をまとめていければと思います。

2．地域包括ケア人材養成コース

「資料2　地域包括ケア人材養成コース募集要項」参照
※地域包括ケア人材養成コースは平成28年度の事業報告と平成29年度の経過報告を掲載

－対　　象－

長崎県内の理学療法・作業療法の業務に従事している者

－教育目標－

本コースは、長崎県における地域リハビリテーション活動から培ってきた教育プログラムを提供し、地域包括ケアをマネジメントできる人材を養成することを目的とする。具体的には、各職種間の共通認識を構築するための国際生活機能分類（ICF）を用いた生活障害の分析と理解、地域で展開されている介護予防の理解と実践、地域ケア会議やサービス担当者会議等への参加によりケアマネジメントを実践する。このことより、地域包括ケアに寄与できる指導力を有する理学療法士・作業療法士を養成する。

－到達目標－

1. 地域包括ケアの背景を理解し、必要な理論を習得する。
2. 地域包括ケアに関わる関連機関及び職種の役割を理解できる。
3. 介護予防の理論と住民活動への支援の意義を理解できる。
4. 国際生活機能分類（ICF）を用いて、対象者のケアマネジメントにおける課題分析とその対応方法を実践できる。
5. 医療・介護・福祉の連携について理解できる。
6. 地域で展開されている介護予防事業や地域ケア会議に参画し、地域リハビリテーションの立場からマネジメントできる。

－カリキュラム－

地域包括ケアシステム、地域の理解、介護予防の理論と実際、ICFの理論、地域ケア会議ならびにケアマネジメントに関する講義と、介護予防事業や地域ケア会議ならびにサービス担当者会議への参加によりケアマネジメントを実践する実習演習から構成している。「地域包括ケアシステムと関連機関を知る」「地域包括ケアシステム推進に向けた実践とマネジメント」「総括」の3ステージからなる総時間120時間のコースである。

平成28年度地域包括ケア人材養成コースについて

開講期間：平成28年10月1日～平成29年3月31日
受 講 者：50名（理学療法士32名、作業療法士18名）
修 了 者：45名（理学療法士29名、作業療法士16名）

【平成28年度コース受講後アンケート調査結果－平成28年度受講者を対象として－】

本コースの振り返りと効果判定ならびに今後のコース内容を検討することを目的に、受講者に対してコース受講終了直後にカリキュラム内容、実習演習の内容、到達目標の達成度についてアンケート調査を実施した。

カリキュラム内容について（図1）は、カリキュラム構成、eラーニング講義、受講システム、集中講義の全てにおいて「大変良かった」「良かった」と回答した受講者が90％以上を占めていた。eラーニング講義や受講システムにおいて，「あまり良くなかった」と回答した受講者のコメントとしては、「1科目の講義時間が長いため、集中力が持続できなかった」「時間を少し短縮した方が受講しやすい」などの意見があがっており、受講者の視聴時間を考慮したコンテンツの組み方を検討する必要があるものと思われた。

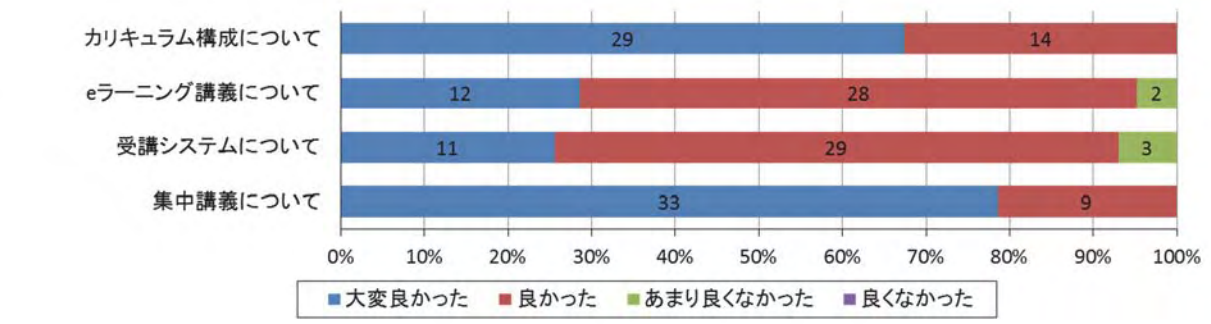


図1. カリキュラム内容の感想

本コースでは、受講者が受講終了後に地域に参画できるようになることを目的に、受講者の勤務施設の近隣施設や地域での見学実習、介護予防・健康づくり事業への参加、地域ケア会議やサービス担当者会議に参加してケアマネジメントを立案するケアマネジメント実習をカリキュラムの中に組み込んでいる。この実習演習について(図2)は、全ての実習において「大変良かった」「良かった」と回答した受講者が90%以上を占めていた。「あまり良くなかった」と回答した受講者の意見としては、「何を学ぶための実習演習なのか」「受け入れ施設担当者の理解が得られていなかった」などの意見があがっており、実習演習の目的とその手順を受講者と受け入れ施設双方に説明し、その意義を共有する必要があるものと思われた。

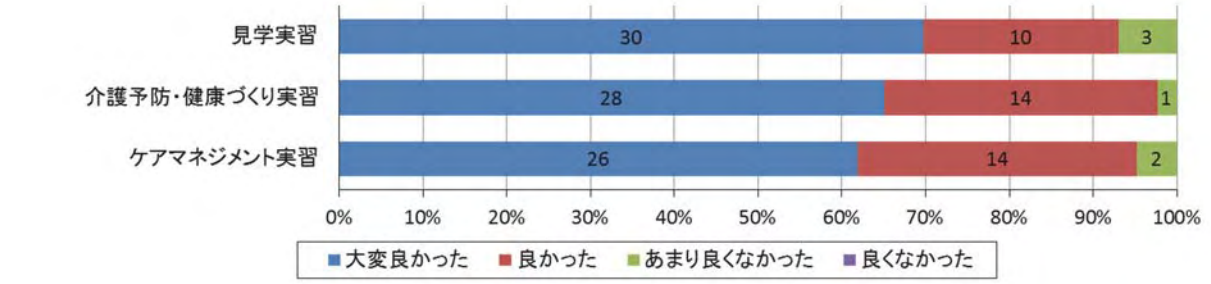


図2. 実習演習の感想

本コースの到達目標の達成度(図3)については，全ての項目において「大変できた」「できた」と回答した受講者が60%以上を占めていた。しかし、「ICFを用いてケアマネジメントにおける課題分析と対応方法を実践できた」「介護予防事業・地域ケア会議において地域リハの立場からマネジメントができた」といった項目では、「あまりできなかった」と回答した受講者も存在し、自立支援の視点でケアマネジメントを立案する能力を高める必要があるものと思われた。

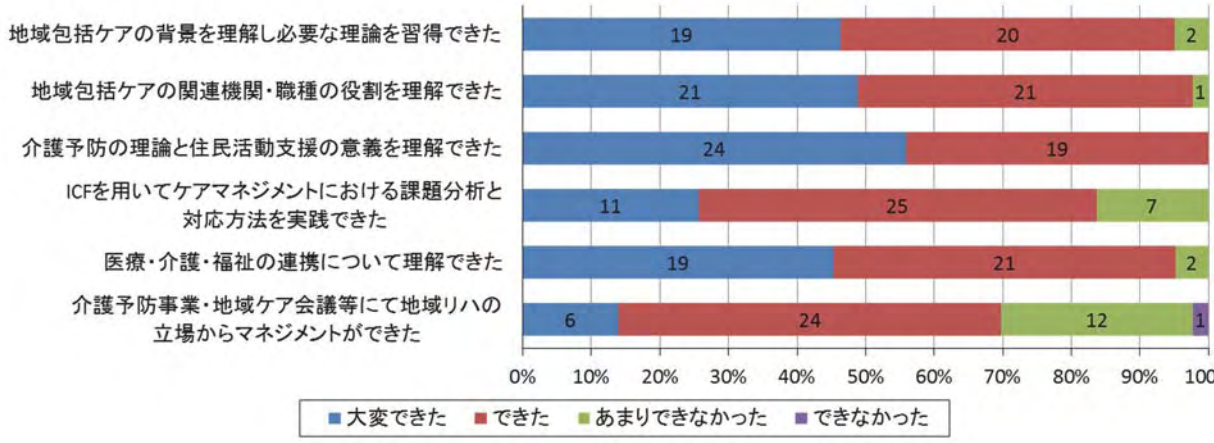


図3. 到達目標の達成度

次に、本コース受講前と比較した受講を通した「地域との連携や介護予防事業等への参画」の変化について、受講終了直後と受講終了3ヵ月後にアンケート調査を行った（図4，5）。「勤務施設と他施設（地域）との連携がとれるようになった」と回答した受講者は、受講終了直後では46.5%であったのに対し、受講終了3ヵ月後では61.1%と増加していた。また、「地域包括ケアの関連機関と連携がとれるようになった」と回答した受講者は、受講終了直後では53.5%であったのに対し、受講終了3ヵ月後では63.9%と増加していた。さらに、受講終了直後と比較すると、受講終了3ヵ月後では介護予防事業や地域ケア会議に参画できるようになっている受講者も増加している結果であった。これらの結果は、受講者がコース終了後に地域に参画できるようになっていることを示唆しており、本コースは地域包括ケアシステムにおけるリハ専門職の役割として必要不可欠と考えられる「医療と介護の連携」や「介護予防事業や地域ケア会議への参画」に寄与しているものと思われる。

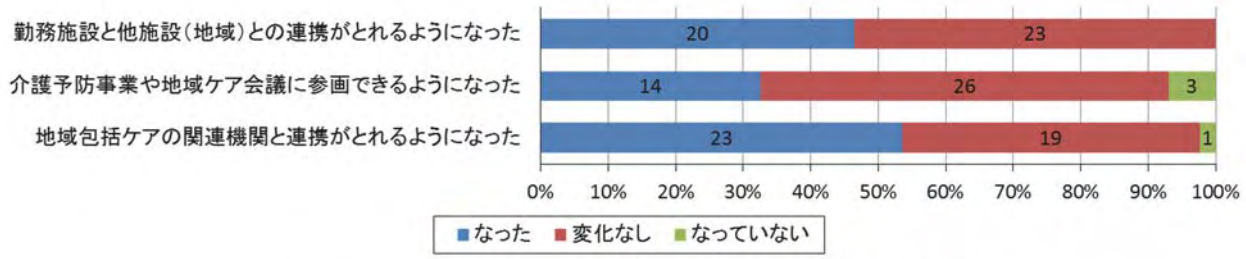


図4. 本コース受講前と比較した受講を通した変化：受講終了直後に実施した結果

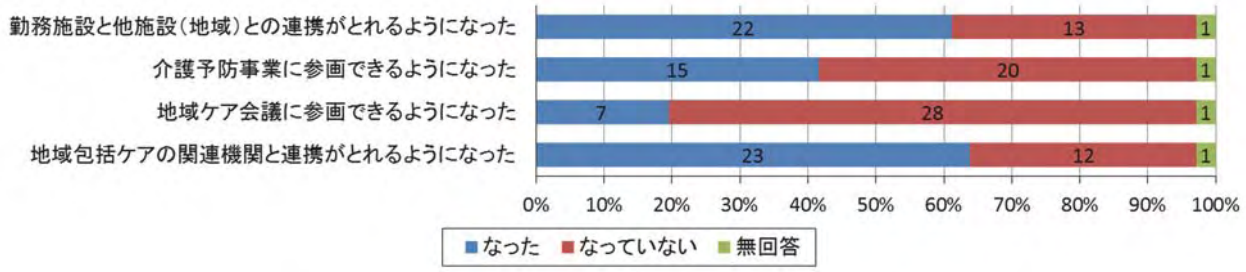


図5. 本コース受講前と比較した受講を通した変化：受講終了3ヵ月後に実施した追跡調査

【平成29年度コース開講に向けた課題と対応】

地域包括ケア人材養成コースカリキュラム委員会にて、受講者・実習施設を対象としたアンケート調査や長崎地域包括ケア教育推進委員会委員及び学内教員の意見をもとに、平成29年度コースに向けた課題と対応を検討した。

① カリキュラムについて

集中講義が多く負担が大きかったとの意見があり、平成28年度に集中講義で開講した講義の一部をeラーニング講義へ移行することとなった。実習・演習に関しても、業務を休む必要があり、日程調整に苦慮した等の意見があり、平成29年度は、実習「健康づくり・介護予防事業への参加」を3回から2回に回数を減じることとなった。

② eラーニング講義について

各講師に担当講義及び担当講義の課題内容について再確認を依頼し、変更の必要があるものに関しては再撮影、修正等を行った。また、受講者より一コンテンツが長いとの指摘が複数あったため、一コンテンツの長さを30～60分ずつに区切ることとした。さらに、より円滑な視聴が可能となるよう、画像解像度を検討し各コンテンツの容量縮小を行うこととなった。また、各講義の評価（理解度、内容の充実度等）を得るため、平成29年度より課題に授業評価項目を追加することとなった。

③　集中講義について

受講者の負担軽減のため集中講義の回数を減じることとなった（①参照）。また、平成29年度より、eラーニング講義同様、各授業の授業評価を実施することとなった。

④　実習・演習について

受講者の負担軽減のため一部実習の回数を減じることとなった（①参照）。平成28年度の運営を振り返り、様式の修正を行った。また、実習施設及び実習担当者に対する説明が十分ではなかったとの指摘を受け、平成29年度は実習担当者への説明文書を発行することとした。

平成29年度地域包括ケア人材養成コースについて

【平成29年度受講者募集期間】

平成29年5月8日～5月19日

【平成29年度応募者数】

81名（募集人員40名）

【平成29年度受講者数】

41名（理学療法士25名，作業療法士16名）

※応募者数が定員を超過したため、定員を41名へ増員し、地域包括ケア人材養成コースカリキュラム委員会で選考した。

※平成28年度臨床指導者養成教育コースで修了できなかった5名は未受講科目のみ受講し、修了した場合には、平成29年度の本コース修了者として修了証書を発行することとした。

【平成29年度臨床指導者養成教育コース開講期間】

平成29年9月30日～平成30年3月31日

【修了者予定数】

43名（理学療法士27名、作業療法士16名　内平成28年度本コース受講者5名）

【平成29年度受講者内訳】

受講者数（男性／女性）（名）		30／11
年齢（名）	20歳代	8
	30歳代	19
	40歳代	11
	50歳代	3
経験年数（名）	0－ 4年	7
	5－ 9年	17
	10－14年	8
	15－19年	4
	20年－	5
地域別（名）	長崎市（21）、諫早市（3）、佐世保市（5）、大村市（2）、雲仙市（2）、島原市（2）、東彼杵町（1）、時津町（1）、長与町（2）、平戸市（1）、五島市（1）	

【実習施設との調整】

地域で活躍できる実践能力を培うことを目的に、見学実習・介護予防健康づくり実習・ケアマネジメント実習を配置し、長崎県内の地域包括ケアシステムに関連する行政や地域包括支援センターならびに地域医療機関との連携構築を図った。

実習内容	施　設	施設数
見学実習 （計　57施設）	地域包括支援センター	23
	居宅介護支援事業所	13
	回復期病院	8
	介護老人保健施設	8
	訪問リハビリ事業所	5
介護予防・健康づくり実習 （計　32施設）	地域包括支援センター	10
	介護予防事業委託事業所	22
ケアマネジメント実習 （計　37施設）	地域ケア会議 （地域包括支援センター）	20
	サービス担当者会議 （居宅介護支援事業所）	17

【カリキュラム】

ステージⅠ：【地域包括ケアシステムと関連機関を知る】(開講時期：10-11月)：30時間

講座名	科目名	時間		講義形式	講　師 ※長崎大学医学部保健学科
地域包括ケアシステムに関連する施設見学	①地域包括支援センター	6	12 ※2施設選択	※実習演習	－
	②居宅介護支援事業所	6			
	③回復期リハビリテーション病棟	6			
	④介護老人保健施設	6			
	⑤訪問リハ（訪問介護）事業所	6			
地域包括ケアシステムについて	個人情報とセキュリティ	2		eラーニング	磯　ふみ子※
	障害者政策について	2		eラーニング	藤井　修 （相談支援センター　悠）
	介護保険制度について	2		eラーニング	井口　茂※
	地域包括ケアシステムとその背景	2		eラーニング	村上　重紀 （尾道市公立みつぎ総合病院）
	地域包括ケアシステムに関わる機関とリハビリ専門職の役割	2		eラーニング	逢坂　伸子 （大東市保健医療福祉センター）
	地域包括支援センターの役割と機能	2		eラーニング	辻　敏子 （島原市地域包括支援センター）
	国・県・市町村における保健福祉政策について	2		eラーニング	中尾　理恵子※
	地域リハビリテーションについて	2		集中講義	松坂　誠應 （長崎リハビリテーション病院）
	長崎県における地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み	2		集中講義	田島　玲悟 （長崎県福祉保健部長寿社会課）

ステージⅡ：【地域包括ケアシステム推進に向けた実践とマネジメント】（開講時期：11～2月）：80時間

講座名	科目名	時間		講義形式	講　師 ※長崎大学医学部保健学科
地域包括ケアシステム推進に向けたマネジメントの実践	介護予防・健康づくり（自主活動）事業への参加：2回	16	必修	※実習演習	－
	①地域ケア会議への参加：2回	12	12 ※1コース選択		
	②サービス担当者会議または退院前カンファレンスへの参加：2回	12			
地域の理解	地域診断（地域アセスメント）について(1)	2		eラーニング	中尾　理恵子※
	地域診断（地域アセスメント）について(2)（演習）	4		集中講義	中尾　理恵子※
介護予防の理論と実際	介護予防事業における行政の役割	2		eラーニング	岩本　美鶴 （長崎県福祉保健部長寿社会課）
	健康増進における介護予防	2		eラーニング	中垣内　真樹 （鹿屋体育大学）
	ロコモティブシンドロームに対するリハビリテーション	2		eラーニング	小関　弘展※
	サルコペニアに対するリハビリテーション	2		eラーニング	中原　和美 （熊本保健科学大学） 平瀬　達哉※
	介護予防の必要性とエビデンス(1) －運動器・認知	2		eラーニング	平瀬　達哉※ 田中　浩二※
	介護予防の必要性とエビデンス(2) －口腔機能・栄養改善	2		eラーニング	東嶋　美佐子※ 古川　美和 （長崎市医師会保健福祉センター）
	介護予防事業における評価について（演習）	6		集中講義	井口　茂、平瀬　達哉※ 田中　浩二※ 東嶋　美佐子※ 古川　美和 （長崎市医師会保健福祉センター）
	介護予防事業の地域における実践例	6		集中講義	飯野　朋彦 （介護老人保健施設にしきの里） 中村　剛 （特別養護老人ホームなでしこ荘） 林田　京子 （新上五島町地域包括支援センター） 福田　一子 （長崎市西浦上・三川地域包括支援センター） 増山　博之（柿添病院）
	介護予防・日常生活支援総合事業	2		eラーニング	井口　茂※
ICFの理論	ICFの理論	2		eラーニング	井口　茂※
	急性期における医療と介護の連携	2		eラーニング	川崎　浩二 （長崎大学病院）
	回復期における医療と介護の連携	2		eラーニング	淡野　義長 （長崎リハビリテーション病院）
	生活期リハビリテーションの実際と課題 (1)－施設，(2)－在宅	2		eラーニング	秀嶋　敏和 （介護老人保健施設恵仁荘） 本田　憲一 （長崎リハビリテーション病院）

講座名	科目名	時間	講義形式	講　師 ※長崎大学医学部保健学科
地域ケア会議ならびにケアマネジメント	地域ケア会議の目的と機能ならびにリハビリ専門職の関わり	2	eラーニング	江田　佳子 (佐々町地域包括支援センター) 田中　浩二※
	ケアマネジャーの役割	2	eラーニング	榎本　哲子
	生活行為向上マネジメントについて	2	eラーニング	東　登志夫※
	施設におけるマネジメント	2	集中講義	田中　純子 (介護老人保健施設三原の園)
	サービス担当者会議におけるマネジメント	2	集中講義	陣野　紀代美 (長崎市医師会保健福祉センター)
	住宅改修と福祉用具(生活環境の整備)	2	eラーニング	北島　栄二 (国際医療福祉大学)

ステージⅢ:【総括】(開講時期:3月):10時間

講座名	科目名	時間	講義形式	講　師 ※長崎大学医学部保健学科
総括	地域包括ケアシステム推進に向けて	10	集中講義	井口茂※

【集中講義】(抜粋)

○科目名:地域リハビリテーションについて

日　時:平成29年9月30日(土)13:00〜16:10

講　師:松坂　誠應　先生(長崎リハビリテーション病院)

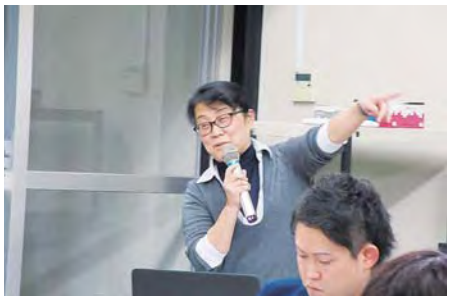
田島　玲悟　先生(長崎県福祉保健部長寿社会課)

○科目名:介護予防における評価(演習)

日　時:平成29年10月1日(日)14:50〜15:50

講　師:古川　美和先生(長崎市医師会保健福祉センター)

○科目名：施設・サービス担当者会議におけるマネジメント
日　時：平成 29 年 11 月 18 日（土）14:10～17:20
講　師：田中　純子　　先生（介護老人保健施設三原の園）
陣野　紀代美　先生（長崎市医師会保健福祉センター）



○科目名：介護予防事業の地域における実践例
日　時：平成 29 年 11 月 19 日（日）10:00～15:40
講　師：飯野　朋彦　先生（介護老人保健施設　にしきの里）
中村　剛　　先生（特別養護老人ホーム　なでしこ荘）
福田　一子　先生（長崎市西浦上・三川地区地域包括支援センター）
林田　京子　先生（新上五島町地域包括支援センター）
増山　博之　先生（医療法人医理会　柿添病院）

【実習演習】（巻末資料参照）

内　容：地域包括ケアシステムに関連する施設見学や、地域で展開されている介護予防や健康づくり事業に参加し運動指導やレクリエーションを体験する。さらに、サービス担当者会議もしくは地域ケア会議に参加し自立支援の視点から個別ケースのケアマネジメントを実践する。

○施設見学

回復期リハビリテーション病棟

介護老人保健施設

地域包括支援センター

○介護予防健康づくり実習

○ケアマネジメント実習

総　括

地域包括ケア人材養成コースカリキュラム委員長　井口　茂

平成29年度の地域包括ケア人材養成コースは、平成28年度の受講状況と終了後の受講者に対するアンケート結果をもとに、受講者の負担に配慮した内容に変更を加え実施しました。具体的には、集中講義科目の一部eラーニングへの変更、介護予防・健康づくり事業への参加回数の軽減などで遠隔地にある職場からの受講に配慮した形式とし、今年度、島しょ部からも受講していただきました。また、見学・演習・実習を円滑にする目的で実習施設への実習の手引きを改定し対応しました。

本コースの目的は、地域包括ケアの背景や地域包括ケアに関わる関係機関と他職種を理解し、リハビリテーション専門職に求められる役割を考えることにあります。また、見学・演習・実習においては、受講者の職場近郊の地域包括支援センターや介護保険事業所などに依頼しており、医療と介護の連携や受講後の地域支援につなげていくことも目的としています。

見学後の受講者からは、昨年度と同様、医療機関から介護保険事業所への情報提供の必要性や地域包括支援センター及び居宅介護支援事業所との連携など、いわゆる医療と介護の連携に関するコメントが多く伺えました。健康づくり・介護予防事業への参加では、実際に参加者に対する体力評価や運動指導を行い、その目的や方法を参加者へ伝えていくことの難しさなどのコメントがありました。また、ケアマネジメント演習では、医療分野での評価とは異なり、生活者への支援という観点からのマネジメントに苦労する様子が伺えています。昨年度と同様に、本コースでの見学・演習・実習を通して、地域包括ケアに関わるリハ職の役割について学んで頂いたものと考えます。

平成29年度の地域包括ケア人材養成コースは、3月17日にコースのまとめを行い43名が修了する予定となっています。本報告書では、修了後のアンケート、受講後の感想などご報告できませんが、次年度のフォーラム等でご報告していきたいと思います。

最後に本コースの見学・演習・実習では126の施設にご協力いただきました。この紙面を借りて、感謝申し上げます。

フォーラム

高度リハビリテーション専門職の養成 大阪府立大学×長崎大学 合同フォーラム

日　　時：平成29年8月26日（土）　13：30～17：10
場　　所：長崎大学医学部 良順会館 ボードインホール
テ ー マ：地域包括ケアシステムに貢献できるリハビリテーション専門職養成に向けた取り組み
資料配布：長崎県理学療法士協会、長崎県作業療法士会及び関係機関、県内養成校、地域包括ケア人材養成コース実習施設にちらしを郵送した。（82施設）
参加者数：67名
内　　容：

開会あいさつ　　長崎大学医学部保健学科長　　田中　悟郎
講　　演　「在宅ケアを支えるリハビリテーション専門職育成に向けた展望と課題」
大阪府立大学地域保健学域総合リハビリテーション学類理学療法学専攻
樋口　由美　先生
話 題 提 供　「長崎大学の学部教育「チーム医療実践教育プログラム」の紹介」
長崎大学医学部保健学科保健学実践教育研究センター　　井口　茂
シンポジウム　「地域におけるリハビリテーション専門職の活動実践と課題」
長崎県長寿社会課　作業療法士　　田島　玲悟　先生
青洲会病院　　理学療法士　　松尾　尚子　先生
佐世保中央病院　　作業療法士　　朝里　良太　先生
島原市地域包括支援センター所長　　辻　　敏子　先生
閉会あいさつ　　長崎大学医学部保健学科保健学実践教育研究センター　　井口　茂

文部科学省　課題解決型高度医療人材養成プログラム

高度リハビリテーション専門職の養成

長崎大学×大阪府立大学

合同フォーラム

日　時：平成 29 年 8 月 26 日（土）
13:30～17:10

場　所：長崎大学医学部
良順会館 2 階「ボードインホール」
（長崎市坂本 1 丁目 12-4）

参加費：無料

駐車場はございません。公共交通機関でのご来場をお願いします。

文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」採択事業
高度リハビリテーション専門職の養成
ー長崎地域包括ケアシステムを活用したプログラムー
TPARP
Training Program for Advanced Rehabilitation Professionals

文部科学省　課題解決型高度医療人材養成プログラム
コア・プロジェクト-在宅ケアを支えるリハビリ専門職の育成-
医療と在宅ケアの連携を推進する人材育成プログラム
CORE
HRD PROJECT for COMMUNITY REHABILITATION SPECALIST

臨床指導者養成教育コース推進フォーラム

日　　時：平成29年12月2日（土）　13：00～17：00
場　　所：長崎大学　文教スカイホール
資料配布：本学臨床実習施設及び関係機関、養成校（国立大学、県内）にちらしを郵送した（149箇所）
参加者数：87名
内　　容：

開会挨拶　　長崎大学医学部保健学科長　　田中　悟郎

本学の取組み紹介

①　臨床指導者養成教育コース進捗状況
　長崎大学医学部保健学科保健学実践教育研究センター　　井口　　茂

②　本学臨床実習施設を対象としたアンケート報告
　長崎大学医学部保健学科理学療法学専攻　　神津　　玲
　作業療法学専攻　　岩永竜一郎

③　国立大学教員を対象としたアンケート報告
　長崎大学医学部保健学科理学療法学専攻　　坂本　淳哉

講　　演　「理学療法における臨床教育の課題と展望」
　公益社団法人日本理学療法士協会理事、
　一般社団法人日本リハビリテーション臨床教育研究会会長　　中川　法一　先生

「作業療法における臨床教育の課題と展望」
　一般社団法人日本作業療法士協会 養成教育委員会委員長、
　金城大学医療健康学部作業療法学科教授　　澤　　俊二　先生

閉会挨拶　　長崎大学医学部保健学科保健学実践教育研究センター　　井口　　茂

文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」採択事業
高度リハビリテーション専門職の養成
ー長崎地域包括ケアシステムを活用したプログラムー
TPARP Training Program for Advanced Rehabilitation Professionals

臨床指導者養成教育コース推進フォーラム

理学療法士・作業療法士
指定規則改訂に伴う
臨床実習の課題と展望

平成29年12月2日(土) 13:00〜17:00

長崎大学文教スカイホール(長崎市文教町1-14)

入　場　無　料
(ホームページの申込みフォームからお申込みください)

駐車場は事前申し込みが必要です。
数に限りがございますので、できるだけ公共交通機関をご利用下さい。
また、申し込み数によっては、お断りする場合がございますので、予めご了承下さい。

問い合わせ先　長崎大学医学部保健学科　保健学実践教育研究センター
〒852-8520 長崎市坂本1-7-1　TEL/FAX:095-819-7937　Eメール:kadai_ptotgp2@ml.nagasaki-u.ac.jp

主催：長崎大学医学部保健学科
後援：公益社団法人　長崎県理学療法士協会、一般社団法人　長崎県作業療法士会

成果報告

学会発表

【第52回日本理学療法学術大会】

日　　時：平成29年5月12日(金)～14日(日)

会　　場：千葉県千葉市

発表演題：①文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラムにおける実習モニタリング導入の試み

②文部科学省「課題快活型高度医療人材養成プログラム」における臨床実習の充実を図る学部教育の取組みが職業的アイデンティティの形成におよぼす影響

報 告 者：井口　茂、平瀬　達哉

【第51回日本作業療法学会】

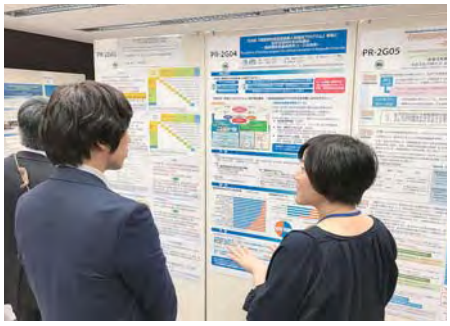
日　　時：平成29年9月22日(金)～24日(日)

会　　場：東京都

発表演題：文科省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」事業における長崎大学の取組

―臨床指導者養成教育コースの効果―

報 告 者：磯　ふみ子



【リハビリテーション・ケア合同研究大会】

日　　時：平成29年10月19日(木)～21日(土)

会　　場：福岡県久留米市

発表演題：文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」における地域包括ケア人材養成の取り組みについて―リハ専門職を中心に―

報 告 者：井口　茂

広報活動

パンフレット

本事業における取組みを広く周知することを目的にパンフレットを新たに作成した。関係機関や理学・作業療法士養成施設（国立大学、公立大学、長崎県内養成校）に配布するとともに、ホームページへ掲載した。

Web広報

平成27年1月より公開している本事業ホームページにておいて適宜活動報告等の更新を行った。また、同時期に立ち上げたFacebookではより即時性の高い情報発信を行った。

ホームページ（URL）：http://www2.am.nagasaki-u.ac.jp/ptotgp/index.html

Facebook（URL）　：https://www.facebook.com/ptotgp

オープンキャンパス

オープンキャンパスに訪れる高校生に向けて，本事業の取組みをポスターにて紹介した。

日　時：平成29年7月15日(土)

場　所：長崎大学医学部保健学科

会議報告

課題解決型高度医療人材養成プログラム推進委員会

開催日：第１回：平成29年４月18日　第２回：平成29年５月16日
第３回：平成29年６月15日　第４回：平成29年７月13日
第５回：平成29年８月22日　第６回：平成29年９月19日
第７回：平成29年10月27日　第８回：平成29年11月14日
第９回：平成29年12月４日　第10回：平成30年１月９日
第11回：平成30年２月７日　第12回：平成30年２月26日

第１回課題解決型高度医療人材養成プログラム推進委員会　議事

日　　時：平成29年4月18日(火)　14：30～
場　　所：長崎大学医学部保健学科　会議室
参加総数：8名
議　　事：
【報告事項】
①平成29年度事業計画について
②プログラム進捗状況
③臨床実習について検討するワーキング報告
④平成29年度各フォーラムについて
⑤平成28年度事業報告書について
⑥文科省提出書類について
⑦ホームページURL変更について
⑧保健学実践教育研究センターにおける技術職員の雇用について
【審議事項】
①平成29年度GP組織について

第２回課題解決型高度医療人材養成プログラム推進委員会　議事

日　　時：平成29年5月16日(火)　14：30～
場　　所：長崎大学医学部保健学科　会議室
参加総数：9名
議　　事：
【報告事項】
①プログラム進捗状況
②平成29年度各フォーラムについて
③臨床実習について検討するワーキング報告
④新パンフレットについて

第３回課題解決型高度医療人材養成プログラム推進委員会　議事

日　　時：平成29年6月15日(木)　10：30～
場　　所：長崎大学医学部保健学科　会議室
参加総数：7名
議　　事：

【報告事項】
①プログラム進捗状況
②平成29年度各フォーラムについて
③臨床実習改革ワーキング報告
④各県士会・県内他養成校との臨床実習に関する協議について
⑤新パンフレットについて

第４回課題解決型高度医療人材養成プログラム推進委員会　議事

日　　時：平成29年7月13日(木)　16：10～
場　　所：長崎大学医学部保健学科　202チュートリアル室
参加総数：7名
議　　事：
【報告事項】
①プログラム進捗状況
②平成29年度各フォーラムについて
③新パンフレットについて
④文科省による実地調査に実施について
⑤臨床実習改革ワーキング報告
⑥両県士会・県内他養成校との臨床実習に関する意見交換会について
【審議事項】
①GP終了後の本事業継続に向けた検討の開始について

第５回課題解決型高度医療人材養成プログラム推進委員会　議事

日　　時：平成29年8月22日(火)　11：00～
場　　所：長崎大学医学部保健学科
参加総数：8名
議　　事：
【報告事項】
①プログラム進捗状況
②平成29年度各フォーラムについて
③各教育推進委員会の開催について
④新パンフレットについて
⑤文科省による実地調査について
⑥本年度事業遂行状況及び予算執行状況について
⑦臨床実習改革ワーキング報告
⑧両県士会・県内他養成校との臨床実習に関する意見交換会報告
【審議事項】
①課題解決型高度医療人材養成プログラム評価委員会外部委員の増員について
②GP終了後の本事業継続について

第６回課題解決型高度医療人材養成プログラム推進委員会　議事

日　　時：平成29年9月19日(火)　10：00～
場　　所：長崎大学医学部保健学科

参加総数：8名
議　　事：
【報告事項】
①プログラム進捗状況
②平成29年度各フォーラムについて
③各教育推進委員会の開催について
④文科省による実地調査報告
⑤臨床実習改革ワーキング報告
⑥課題解決型高度医療人材養成プログラム評価委員会の新規委員について
【審議事項】
①GP終了後の本事業継続について

第７回課題解決型高度医療人材養成プログラム推進委員会　議事

日　　時：平成29年10月27日(金)　10：00～
場　　所：長崎大学医学部保健学科
参加総数：8名
議　　事：
【報告事項】
①プログラム進捗状況
②平成29年度臨床指導者養成教育コース推進フォーラムについて
③教育推進委員会の開催について
④臨床実習改革ワーキング報告
【審議事項】
①平成31年度以降の事業継続について

第８回課題解決型高度医療人材養成プログラム推進委員会　議事

日　　時：平成29年11月14日(火)　16：10～
場　　所：長崎大学医学部保健学科　会議室
参加総数：8名
議　　事：
【報告事項】
① プログラム進捗状況
② 平成29年度臨床指導者養成教育コース推進フォーラムについて
③ 平成29年度第1回長崎臨床実習教育推進委員会開催報告
【審議事項】
① 平成29年度予算執行状況について
② 平成30年度事業実施計画について
③ 平成31年度以降の事業継続について

第９回課題解決型高度医療人材養成プログラム推進委員会　議事

日　　時：平成29年12月4日(月)　16：10～
場　　所：長崎大学医学部保健学科　会議室
参加総数：7名

議　　事：
【報告事項】
①プログラム進捗状況
②臨床実習改革ワーキング報告
【審議事項】
①平成30年度コース募集要項
②平成31年度以降の事業継続について

第10回課題解決型高度医療人材養成プログラム推進委員会　議事

日　　時：平成30年1月9日（火）　11：00～
場　　所：長崎大学医学部保健学科　会議室
参加総数：7名
議　　事：
【報告事項】
①プログラム進捗状況
【審議事項】
①平成30年度事業計画について
②平成31年度以降の事業継続について
③平成29年度報告書について

第11回課題解決型高度医療人材養成プログラム推進委員会　議事

日　　時：平成30年2月7日（水）　10：30～
場　　所：長崎大学医学部保健学科　会議室
参加総数：5名
議　　事：
【報告事項】
①プログラム進捗状況
②平成29年度報告書について
③決算（仮）報告
④臨床実習改革ワーキング報告
【審議事項】
①平成30年度フォーラムについて
②平成31年度以降の事業継続について

第12回課題解決型高度医療人材養成プログラム推進委員会　議事

日　　時：平成30年2月26日（月）　15：00～
場　　所：長崎大学医学部保健学科　会議室
参加総数：6名
議　　事：
【審議事項】
①平成30年度大学改革推進等補助金調書について
②臨床指導者養成教育コース受講者選定について
③課題解決型高度医療人材養成プログラム評価委員会について

臨床指導者養成教育コースカリキュラム委員会

開催日：第１回：平成29年４月10日　第２回：平成29年５月８日
第３回：平成29年６月12日　第４回：平成29年７月11日
第５回：平成29年８月18日　第６回：平成29年９月13日
第７回：平成29年10月24日　第８回：平成29年11月13日
第９回：平成29年12月18日　第10回：平成30年１月15日
第11回：平成30年２月19日

第１回臨床指導者養成教育コースカリキュラム委員会　議事

日　　時：平成29年4月10日(月)　9：00～
場　　所：長崎大学医学部保健学科　会議室
参加総数：6名
議　　事：
【報告事項】
①平成29年度年間計画
②平成29年度臨床指導者養成教育コースについて
③臨床実習に関する学内ワーキングの進捗状況について
【審議事項】
①平成29年度臨床指導者養成教育コース推進フォーラムについて

第２回臨床指導者養成教育コースカリキュラム委員会　議事

日　　時：平成29年5月8日(月)　9：00～
場　　所：長崎大学医学部保健学科　会議室
参加総数：7名
議　　事：
【報告事項】
①平成29年度臨床指導者養成教育コースについて
②臨床実習に関する学内ワーキングの進捗状況について
【審議事項】
①平成29年度臨床指導者養成教育コース推進フォーラムについて

第３回臨床指導者養成教育コースカリキュラム委員会　議事

日　　時：平成29年6月12日(月)　9：00～
場　　所：長崎大学医学部保健学科　会議室
参加総数：7名
議　　事：
【報告事項】
①平成29年度臨床指導者養成教育コースについて
②臨床実習改革ワーキングの進捗状況について
【審議事項】
①平成29年度臨床指導者養成教育コース推進フォーラムについて

②県内他養成校との協議について

第４回臨床指導者養成教育コースカリキュラム委員会　議事

日　　時：平成29年7月11日(火)　9：00～
場　　所：長崎大学医学部保健学科　会議室
参加総数：7名
議　　事：
【報告事項】
①平成29年度臨床指導者養成教育コースについて
②各県士会・県内他養成校との臨床実習に関する意見交換会について
③臨床実習改革ワーキングの進捗状況について
【審議事項】
①平成29年度臨床指導者養成教育コース推進フォーラムについて
②OJT・実習モニタリングについて

第５回臨床指導者養成教育コースカリキュラム委員会　議事

日　　時：平成29年8月18日(金)9：00　～
場　　所：長崎大学医学部保健学科　心理学実習室
参加総数：6名
議　　事：
【報告事項】
①平成29年度臨床指導者養成教育コースについて
②臨床指導者養成教育コース推進フォーラムについて
③長崎臨床実習教育推進委員会の開催について
④両県士会・県内他養成校との臨床実習に関する意見交換会報告
⑤臨床実習改革ワーキングの進捗状況について
【審議事項】
①「OJT・実習モニタリング演習」及び修了式(9／16開催予定)について
②GP終了後の事業継続について

第６回臨床指導者養成教育コースカリキュラム委員会　議事

日　　時：平成29年9月13日(水)11：00～
場　　所：長崎大学医学部保健学科　203チュートリアル室
参加総数：7名
議　　事：
【報告事項】
①平成29年度臨床指導者養成教育コースについて
②臨床指導者養成教育コース推進フォーラムについて
③長崎臨床実習教育推進委員会の開催について
④臨床実習改革ワーキングの進捗状況について
【審議事項】
①GP終了後の事業継続について
②臨床実習教育ガイドブックの作成について

第７回臨床指導者養成教育コースカリキュラム委員会　議事

日　　時：平成29年10月24日(火)９：00～
場　　所：長崎大学医学部保健学科　会議室
参加総数：7名
議　　事：
【報告事項】
①平成29年度臨床指導者養成教育コースについて
②臨床指導者養成教育コース推進フォーラムについて
③長崎臨床実習教育推進委員会の開催について
【審議事項】
①GP終了後の事業継続について
②臨床実習ガイドブックの作成について

第８回臨床指導者養成教育コースカリキュラム委員会　議事

日　　時：平成29年11月13日(月)　16：10～
場　　所：長崎大学医学部保健学科　会議室
参加総数：8名
議　　事：
【報告事項】
①平成30年度臨床指導者養成教育コースについて
②臨床指導者養成教育コース推進フォーラムについて
③長崎臨床実習教育推進委員会報告
【審議事項】
①平成30年度臨床指導者養成教育コースについて
②GP終了後の事業継続について

第９回臨床指導者養成教育コースカリキュラム委員会　議事

日　　時：平成29年12月18日(月)　10：30～
場　　所：長崎大学医学部保健学科　会議室
参加総数：6名
議　　事：
【報告事項】
①平成30年度臨床指導者養成教育コースについて
②臨床指導者養成教育コース推進フォーラムについて
【審議事項】
①平成30年度集中講義講師について
②GP終了後の事業継続について
③臨床実習ガイドブックの作成について

第10回臨床指導者養成教育コースカリキュラム委員会　議事

日　　時：平成30年1月15日(月)　17：00～
場　　所：長崎大学医学部保健学科　会議室
参加総数：5名

議　　事：
【報告・審議事項】
①平成29年度報告書について
②平成30年度コースについて
③臨床実習ガイドブックの作成について
④平成31年度以降の事業継続について
⑤第2回長崎臨床実習教育推進委員会議事内容について

第11回臨床指導者養成教育コースカリキュラム委員会　議事

日　　時：平成30年2月19日(月)　10：30～
場　　所：長崎大学医学部保健学科　会議室
参加総数：7名
議　　事：
【報告・審議事項】
①長崎臨床実習教育推進委員会について
②平成30年度コースについて
③平成30年度フォーラムについて
④臨床実習ガイドブックの作成について
⑤平成31年度以降の事業継続について

臨床実習推進プログラムカリキュラム委員会

開催日：第 1 回：平成29年 5 月18日

第 1 回臨床実習推進プログラムカリキュラム委員会　議事

日　　時：平成29年5月18日(木)　10：30～
場　　所：長崎大学医学部保健学科　会議室
参加総数：7名
議　　事：
【報告事項】
①平成29年度事業計画について
②本委員会について
③臨床実習推進プログラムについて
④チーム医療実践教育・臨床実習推進プログラムの評価について

地域包括ケア人材養成コースカリキュラム委員会

開催日：第１回：平成29年４月25日　第２回：平成29年５月23日
第３回：平成29年５月29日　第４回：平成29年６月26日
第５回：平成29年７月６日　第６回：平成29年８月17日
第７回：平成29年９月７日　第８回：平成29年10月12日
第９回：平成29年11月２日　第10回：平成29年12月12日
第11回：平成30年１月16日　第12回：平成30年２月22日

第１回地域包括ケア人材養成コースカリキュラム委員会　議事

日　　時：平成29年4月25日(火)　13：00～14：20
場　　所：長崎大学医学部保健学科　会議室
参加総数：6名
議　　事：
【報告事項】
①平成28年度地域包括ケア人材養成コースアンケート結果について
②平成29年度地域包括ケア人材養成コースタイムスケジュールについて
【審議事項】
①平成29年度地域包括ケア人材養成コース推進フォーラムについて

第２回地域包括ケア人材養成コースカリキュラム委員会　議事

日　　時：平成29年5月23日(火)　10：30～12：00
場　　所：長崎大学医学部保健学科　会議室
参加総数：7名
議　　事：
【報告事項】
①平成29年度地域包括ケア人材養成コース推進フォーラムについて
【審議事項】
①平成29年度地域包括ケア人材養成コース受講者選定について

第３回地域包括ケア人材養成コースカリキュラム委員会　議事

日　　時：平成29年5月29日(月)　15：30～
場　　所：長崎大学医学部保健学科　会議室
参加総数：6名
議　　事：
【報告事項】
①平成29年度地域包括ケア人材養成コース推進フォーラムについて
【審議事項】
①平成29年度地域包括ケア人材養成コース受講者決定について
②その他

第４回地域包括ケア人材養成コースカリキュラム委員会　議事

日　　時：平成29年6月26日(月)　15：30～
場　　所：長崎大学医学部保健学科　会議室
参加総数：7名
議　　事：
【報告事項】
①平成29年度地域包括ケア人材養成コース推進フォーラムについて
②平成29年度地域包括ケア人材養成コース：eラーニングについて
【審議事項】
①平成29年度地域包括ケア人材養成コース：実習地調整
②今後のタイムスケジュールについて

第５回地域包括ケア人材養成コースカリキュラム委員会　議事

日　　時：平成29年7月6日(木)　14：30～
場　　所：長崎大学医学部保健学科　会議室
参加総数：7名
議　　事：
【報告事項】
①平成29年度地域包括ケア人材養成コース推進フォーラムについて
②平成29年度地域包括ケア人材養成コースについて
【審議事項】
①平成29年度地域包括ケア人材養成コース推進フォーラムについて
②平成29年度地域包括ケア人材養成コースについて

第６回地域包括ケア人材養成コースカリキュラム委員会　議事

日　　時：平成29年8月17日(木)　13：00～
場　　所：長崎大学医学部保健学科　会議室
参加総数：6名
議　　事：
【報告事項】
①高度リハビリテーション専門職の養成長崎大学×大阪府立大学合同フォーラムについて
②平成29年度地域包括ケア人材養成コースについて
【審議事項】
①GP終了後の事業継続について

第７回地域包括ケア人材養成コースカリキュラム委員会　議事

日　　時：平成29年9月7日(木)　13：00～
場　　所：長崎大学医学部保健学科　会議室
参加総数：6名
議　　事：
【報告事項】
①高度リハビリテーション専門職の養成長崎大学×大阪府立大学合同フォーラムについて
②平成29年度地域包括ケア人材養成コースについて

【審議事項】
①GP終了後の事業継続について

第８回地域包括ケア人材養成コースカリキュラム委員会　議事

日　　時：平成29年10月12日(木)13：00～
場　　所：長崎大学医学部保健学科　会議室
参加総数：6名
議　　事：
【報告事項】
①平成29年度地域包括ケア人材養成コースについて
②平成29年度第1回長崎地域包括ケア教育推進委員会(9/11)開催報告
【審議事項】
①GP継続について

第９回地域包括ケア人材養成コースカリキュラム委員会　議事

日　　時：平成29年11月2日(木)　13：00～
場　　所：長崎大学医学部保健学科　会議室
参加総数：7名
議　　事：
【報告事項】
①平成29年度地域包括ケア人材養成コースについて
【審議事項】
①GP継続について

第10回地域包括ケア人材養成コースカリキュラム委員会　議事

日　　時：平成29年12月12日(火)　17：00～
場　　所：長崎大学医学部保健学科　会議室
参加総数：5名
議　　事：
【報告事項】
①平成29年度地域包括ケア人材養成コースについて
【審議事項】
①GP継続について
②ガイドブック作成について

第11回地域包括ケア人材養成コースカリキュラム委員会　議事

日　　時：平成30年1月16日(火)　16：00～
場　　所：長崎大学医学部保健学科
参加総数：5名
議　　事：
【報告事項】
①平成29年度報告書について

【審議事項】
①平成29年度コースについて
②平成30年度コースについて
③平成31年度以降カリキュラムについて
④ガイドブック作成について

第12回地域包括ケア人材養成コースカリキュラム委員会　議事

日　　時：平成30年2月22日（木）　13：30～
場　　所：長崎大学医学部保健学科　会議室
参加総数：6名
議　　事：
【報告事項】
①第2回長崎臨床実習教育推進委員会について
②平成30年度GP補助金予定額について
③平成30年度フォーラム（案）について
【審議事項】
①平成29年度コースについて
②ガイドブック作成について
③平成31年度以降カリキュラムについて

平成30年度の事業計画

平成30年度は、下記のスケジュールで本事業を推進し、「チーム医療実践教育・臨床実習推進プログラム」ならびに「高度リハビリテーション専門職の養成プログラム」における事業の最終年度として、平成28年度からの3年間の取り組みについてまとめる。

【平成30年度】

4月	課題解決型高度医療人材養成プログラム推進委員会の開催：平成30年度事業の確認
4 ～ 9月	平成30年度臨床指導者養成教育コースの開講
4月	平成30年度チーム医療実践教育・臨床実習推進プログラムのカリキュラム確認・運用開始
5月	平成30年度地域包括ケア人材養成コース受講者募集開始
8月	課題解決型高度医療人材養成プログラム推進委員会の開催
9月	長崎地域包括ケア教育推進委員会の開催
10月	本事業の他大学や関係機関への普及・情報発信のための学会発表
10月	長崎臨床実習教育推進委員会の開催
10 ～ 3月	平成29年度地域包括ケア人材養成コースの開講
12月	臨床実習教育ガイドブック完成・配布
12月	理学療法士・作業療法士のための地域包括ケアガイドブック完成・配布
1月	シンポジウムの開催
1月	長崎臨床実習教育推進委員会の開催
1月	課題解決型高度医療人材養成プログラム推進委員会の開催
1 ～ 2月	本プログラムの成果の編纂・公開
2月	長崎地域包括ケア教育推進委員会の開催
2月	課題解決型高度医療人材養成プログラム評価委員会の開催
2 ～ 3月	平成30年度事業報告書の作成・配布

点検・評価

長崎臨床実習教育推進委員会

開催日：第 1 回：平成29年11月 2 日　　第 2 回：平成30年 1 月23日

第１回長崎臨床実習教育推進委員会　議事

日　　時：平成29年11月2日(木)　18：30～
場　　所：長崎大学医学部保健学科　会議室
参加総数：13名(外部委員　4名、本学　9名)
議　　事：
【報告・審議事項】
①プログラム進捗状況について
②平成29年度各フォーラムについて
③臨床実習に関する取組について
④臨床実習教育ガイドブックの作成について
⑤平成31年度以降の事業継続について

第２回長崎臨床実習教育推進委員会　議事

日　　時：平成30年1月23日(火)　18：30～
場　　所：長崎大学医学部保健学科　会議室
参加総数：14名(外部委員　4名、本学　10名)
議　　事：
【報告・審議事項】
①プログラム進捗状況について
②平成29年度臨床指導者養成教育コース推進フォーラムについて
③平成30年度臨床指導者養成教育コースについて
④平成29年度報告書について
⑤臨床実習教育ガイドブックについて
⑥平成31年度以降の事業継続について
⑦その他

総　括

外部委員　鎌田　秀一（日見中央病院）

昨年度より開始された高度リハビリテーション専門職養成プログラムも第２期生の卒業生が輩出され、職場内での取り組みとして、臨床指導者養成教育コースで得られた見地を経験が浅い実習指導者へフィードックや職場内での勉強会を開催しているとの話を耳にするようになってきました。これは課題解決型高度医療人材養成プログラムの目的達成へ向けたよき兆候の一つと見受けられます。これは、偏に長崎大学保健学科の方々や集合研修の講師の先生方の尽力による賜物だと思います。

本年度は、平成28年度の運営を振り返り、eラーニング視聴についてもシステムの修正やコンテンツの細分化がなされ、受講者にとってもより活用しやすいものであったと思えます。また、OJT実習モニタリングに際して、様式の修正が図られ、全て手書にて作成しPDF化して提出していたものをPC入力が可能になったことで作業負担軽減が図られ、より受講しやすい受講環境を提供できたと思われます。

次年度へ向けて、未修了者への対応に関して弾力的な配慮と対応が協議され、全ての受講者が修了できればと考えます。更に臨床実習教育ガイドブックの作製へ向けた取り組みも始まり、次年度中の完成発送をもって各養成施設での有効活用に期待し、本コース修了者へはガイドブックを読み返し各現場での般化へ活用し、実習指導に限らず卒後教育（後進育成）の一翼を担っていただけることを切に願います。

長崎地域包括ケア教育推進委員会

開催日：第１回：平成29年９月11日　　第２回：平成30年２月20日

第１回長崎地域包括ケア教育推進委員会　議事

日　　時：平成29年9月11日(月)　19：00～
場　　所：長崎大学医学部保健学科　会議室
参加総数：12名(外部委員　4名、本学　8名)
議　　事：
【報告事項】
①プログラム進捗状況について
②平成29年度本コース推進フォーラムについて
③今後のスケジュールについて
【審議事項】
①GP期間終了後の本事業継続について
②その他

第２回長崎地域包括ケア教育推進委員会　議事

日　　時：平成30年2月20日(火)　19：00～
場　　所：長崎大学医学部保健学科
参加総数：10名(外部委員　5名、本学　5名)
議　　事：
【報告事項】
①プログラム進捗状況について
【審議事項】
①平成30年度コースに向けて
②地域包括ケアガイドブックについて
③平成30年度フォーラム(案)について
④平成31年度以降の事業継続について
⑤その他

総　　括

外部委員　小泉徹児（長崎県理学療法士協会）

地域包括ケア人材養成コースの第２期目が平成29年９月末から約６ヶ月間のプログラムにて開催され、41名の理学療法士・作業療法士が受講されました。受講者の募集時には、定員数の２倍にあたる81名が応募してきており、本コースの周知・人気が上昇していることが伺われます。

本コースの需要の高さは、受講者の内訳のデータにも表れており、41名の受講者の約半数は長崎市内からの受講ですが、少数ながらも島嶼部や車で片道約３時間かかる遠方からも受講されていました。また、働き盛りの30歳代と40歳代が７割を超え、さらに臨床経験が15年以上のベテラン組が２割を占めていました。

本コースのカリキュラムの中で特に私が評価している項目は、計３回行われます実習演習です。１枠目が回復期や生活期の施設見学、２枠目が介護予防事業や自主活動事業への参加、３枠目が地域ケア会議やサービス担当者会議への参加であり、この演習を体感する事でe-ラーニングや集中講義などの座学の理解が深ま

ること、さらに各地区の地域包括ケアシステムの実情をより具体的に理解できることに感心しております。

そしてこの演習がきっかけとなり、１期目を修了した私の後輩は、演習でお世話になった地域包括支援センターから地域ケア会議への協力依頼があり、実際の地域活動に繋がっております。

いよいよ次年度が最終年度の３期目にあたりますが、本コースが地域包括ケアシステムの実践に貢献できる人材育成を継続されますことを期待しております。

課題解決型高度医療人材養成プログラム評価委員会

開催日：第１回：平成30年３月１日

課題解決型高度医療人材養成プログラム評価委員会　議事

日　　時：平成30年3月1日(木)　18：30～
場　　所：長崎大学医学部保健学科
参加総数：9名(外部委員　5名、本学　4名)
議　　事：
【報告事項】
①平成29年度事業報告
②平成30年度事業計画
【審議事項】
①平成31年度以降の事業継続について

総　括

外部委員　田島玲悟（長崎県福祉保健部長寿社会課）

平成27年度介護保険法の改正以降、地域支援事業に「地域リハビリテーション活動支援事業」が盛り込まれるなど、地域包括ケアシステム構築に向け、「リハビリテーション専門職」の活躍が期待されています。

その期待に応えるためには、専門職としての視点や課題解決に向けたマネジメントができるリハビリテーション専門職の養成と市町事業へ参画していく仕組みづくりが必要です。

「高度リハビリテーション専門職の養成－長崎地域包括ケアシステムを活用したプログラム－」は、学内教育からリカレント教育に至るまで、eラーニング、集中講義、演習等を活用した、効率のよい人材養成プログラムが実施されています。

受講者のアンケート結果からは、９割近くの方が、プログラムが「有用」あるいは「良かった」と回答しており、地域包括ケア人材養成コースからは、市町事業(介護予防、地域ケア会議等)への参加に繋がっている受講者も多く、人材養成と地域参画の仕組みづくりが着実に進められています。

最終年度となる平成３０年度には、リハビリテーション専門職の養成に関するガイドブックの作成が計画されており、本事業において構築された養成システムが、今後県内だけでなく県外の多くのリハビリテーション養成機関等において実施されていくことを期待しております。

総　　括

文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」採択事業
高度リハビリテーション専門職の養成－長崎地域包括ケアシステムを活用したプログラム－

平成 29 年度事業総括

長崎大学保健学実践教育研究センター
（本事業プロジェクトリーダー）
井口　　茂

平成29年度の「課題解決型高度医療人養成プログラム」事業は、昨年度の課題を踏まえ、より受講しやすい内容に変更し、実施させていただきました。

具体的には、臨床指導者養成教育コースでは、OJT・実習モニタリングを円滑に進めるためチェックリストの様式変更やOJT指導者に対する実施概要を作成し、地域包括ケア人材養成コースにおいては、受講者の負担軽減のため集中講義の5つのテーマをeラーニングでの受講に変更し、また、介護予防・健康づくり事業への実習を3回から2回へと変更いたしました。

今年度の受講者は、臨床指導者養成教育コースに43名、地域包括ケア人材養成コースに81名の定員40名を超える応募があり、それぞれ40名と41名の方々に受講していただきました。2年目を迎え本事業の周知がなされたことと理学療法における教育及び地域包括ケアシステム構築に関わる社会的要請の理解が応募者の増加につながっているものと思います。

臨床指導者養成教育コースにおいては、平成31年度の指定規則改定に伴う新たな臨床実習形態への対応が急務であり、臨床実習指導者の研修システム構築にも波及させていく必要があります。今年度、学内に設置した臨床実習ワーキングにおいてカリキュラム内容の検討に至り、また、県内の理学療法士・作業療法士養成施設との協議を重ねることができました。地域包括ケア人材養成コースでは、今年度、医療保険と介護保険のダブル改定や第7期高齢者保健福祉計画の策定の年にあたり、それらの社会情勢が受講動機につながっているものと考えます。このような状況の中、受講後の受講者のご活躍を祈っています。

平成30年度は、事業最終年度であり、今年度の課題を補完するとともに事業にまとめに入ります。臨床指導者養成教育コースと地域包括ケア人材養成コースで培ったノウハウをまとめるためガイドブックの作成を事業計画に盛り込む予定です。

次年度も、評価委員会をはじめとした外部有識者の方々や関係各位よりご指導・ご協力をいただきながら進めて参ります。

最後に、今年度事業実施に当たり、動いていただいたGPスタッフの方々に紙面を借りて感謝いたします。

資　　料

平成29年度臨床指導者養成教育コース「OJT・実習モニタリング」様式

様式1

臨床実習スケジュール

勤務先名：　　受講者名：

実習期間：　　年　　月　　日（　　）～　　月　　日（　　）（　　週間）

実習モニタリング期間：　　年　　月　　日（　　）～　　月　　日（　　）（ 4 週間）

実習課題（実習生に課すもの）：

※「実習生に対するオリエンテーションが終了し事例に関する指導を開始したとき」を実習モニタリング期間開始日とし、カレンダー内に期間を書き込んだ上で、第1回提出時（実習モニタリング期間決定時（3日以内））に提出してください。

	日	月	火	水	木	金	土
1週	／						
2週							
3週							
4週							
5週							
6週							
7週							
8週							
9週							
10週							

様式2

臨床実習における基本的事項チェックシート

・本チェックシートは実習受け入れ準備期、オリエンテーション、養成校との連携に関する項目です。
・第2回提出時（実習モニタリング2週目終了時（3日以内））に提出してください。

【記入方法】
・下記の事項の実施状況について、全ての欄に、下記にしたがって記入してください。

○：十分に行った　△：行ったが不十分だった　×：できなかった　／（斜線）：必要なかった

・コメント欄には、不十分であった理由や、各事項におけるエ夫点、実習生の反応、課題などを記載してください。

勤務先名　：

受講者氏名：　　OJT指導者氏名：

Ⅰ．実習受け入れ準備について

内容	チェック
1　臨床実習指導者会議へ出席する、もしくは出席者からの申し送りを受けたか。	
2　実習及び実習生に関する資料（養成校から提供される資料）を確認したか。	
3　実習生が担当する事例の選定方法、実習指導方法についてスタッフ間で話し合ったか。	
4　スタッフ間で実習の目的、目標、実習課題についての打ち合わせを行ったか。	
5　実習指導においてスタッフ間の役割分担を行ったか。	
＜コメント＞	

Ⅱ．オリエンテーションについて

	内容	チェック
実習生の紹介	1　実習生をスタッフに紹介する機会を設けたか。	
実習施設ならびに部門に関するオリエンテーション	2　貴病院・施設とその役割について説明したか。	
	3　貴病院・施設におけるリハビリテーション部門の役割と組織の説明を行ったか。	
	4　他部門や併設施設の説明と必要に応じて実習生をスタッフへ紹介したか。	
	5　実習生の実習日（土日の取り扱い含む）と実習時間（勤務・休憩時間）に関して説明したか。	
	6　実習生が利用する場所（昼食・休憩所、トイレ、図書館等）や利用方法について説明したか。	

様式2

臨床実習に関するオリエンテーション	7 社会人として責任のある行動をとるよう指導したか(時間・提出期限の厳守など)。	
	8 臨床で必要な態度・資質に関して指導したか。	
	9 実習スケジュールを提示(日程表)したか。	
	10 実習課題(実習ノート・デイリーノート等)に関しての説明を行ったか。	
	11 担当患者の介入時間設定について説明したか。	
	12 フィードバック時間、実習見学に関して説明したか。	
	13 実習見学に関しての注意事項や記録などについて説明したか。	
	14 検査器具や理学／作業療法機器などの備品の所在、使用方法などの説明を行ったか。	
	15 カルテまたはそれに準じる症例記録の記録方法と扱い方の説明を行ったか。	
	16 基本的な安全管理・感染対策についての説明を行ったか。	
	17 個人情報保護、守秘義務の徹底についての説明を行ったか。	
学生の把握	18 学生の実習目標を確認し、必要に応じて修正を行ったか。	
	19 学生の基礎的知識・技術、社会性・接遇等の状態を把握するよう努めたか(3～5日間程度)。	
<コメント>		

Ⅲ. 養成校教員との連携

内容	チェック
1 実習地訪問にて、実習の進捗状況について教員とともに確認する。	
2 実習の進行状況について、必要に応じて早めに養成校に連絡する。 (例:実習が順調に進行していないとき、あるいは、順調に進行しそうでない時、遅刻が目立つとき、無断欠席、医療事故(あるいは準じるもの)発生時、体調不良などで実習に支障をきたす場合、など)	
<コメント>	

様式3（PT）

実習モニタリングチェックシート

・「実習生に対するオリエンテーションが終了し事例に関する指導を開始したとき」から4週間を実習モニタリング期間とします。
・第2回提出時（実習モニタリング2週目終了時（3日以内））ならびに第3回提出時（実習モニタリング4週目終了時（3日以内））に提出してください。

【記入方法】
・下記の事項の実施状況について、該当週の全ての欄に、下記にしたがって記入してください。

○：十分に行った　△：行ったが不十分だった　×：できなかった　／（斜線）：必要なかった

・コメント欄には、不十分だった理由、指導内容および実習生対応における工夫点、実習生の反応などを記載してください。

勤務先名　：

受講者氏名：　　OJT指導者氏名：

実習期間　：　　年　　月　　日（　　）～　　月　　日（　　）（　　週間）

モニタリング期間：　　年　　月　　日（　　）～　　月　　日（　　）（ 4 週間）

実習目標：

Ⅰ．実習生への指導者の対応について

全実習期間を通して基本となります。この項目は熟読し1週間ごとに振り返って記入してください。

内容	1週目	2週目	3週目	4週目
1　実習生が素直に質問・相談しやすい雰囲気づくりや時間を確保したか。				
2　実習生の疑問等を解決すべく、実習生自身で考えさせるよう教育的・指導的姿勢をもって接したか。				
3　実習生からネガティブな反応があった場合には、「学生本人の問題」と決めつけず、実習環境や養成校の教育内容、指導者自身の指導方法についても目を向けたか。				
4　実習生、指導者、教員間で実習目標や到達度についての共通理解をもてるよう、実習遂行状況の共有に努めたか。				
5　実習生を理解し、実習生が意欲、積極性を引き出すような指導・促しをしたか。				

＜1～2週目＞

＜3～4週目＞

様式3（PT）

Ⅱ．事例を実習生に担当させる際の指導について

内容	1週目	2週目	3週目	4週目
1 担当事例の情報について、処方箋・カルテを用いて事前に提示したか。				
2 必要な情報収集について、助言したか。				
3 担当事例への介入時間を確認したか。				
4 事例のリハ室への送迎について、その方法や手段を説明したか。				
5 事例に実習生が担当することへの同意を得たか。 （全面的に指導者が責任を持つことを説明するとともに、紙面で得ることが望ましい）				
6 実習生を担当事例に紹介したか。				
＜1～2週目＞				
＜3～4週目＞				

Ⅲ．理学療法評価の実施に対する指導について

内容	1週目	2週目	3週目	4週目
1 カルテからの情報収集について、方法や内容など具体的に指導したか。				
2 本人及び家族からの情報収集について、具体的に指導したか。				
3 他職種（主治医、看護師、OT、ST、MSW、PSW等）からの情報収集について具体的に指導したか。				
4 理学療法における検査・測定等の項目抽出について指導したか。				
5 理学療法における検査・測定等の実施方法について指導したか。				
6 初期評価の実施期間（3日～5日程度）について指導したか。				
7 ICFに準拠した形で患者の全体像を把握するように指導したか。				
8 各評価結果の統合と解釈について指導したか。				
9 問題点の焦点化について指導したか。				
10 短期目標・長期目標の内容、期間などについて、具体的に指導したか。				
＜1～2週目＞				
＜3～4週目＞				

様式3（PT）

Ⅳ．理学療法実施に対する指導について（リスク管理含む）

	内容	1週目	2週目	3週目	4週目
1	当面の短期目標達成のための理学療法プログラムを考慮し、理学療法計画の立案を指導したか。				
2	理学療法プログラムの実施順序と時間配分について指導したか。				
3	理学療法を実施する上で必要となるリスク管理について、指導したか。 （例：バイタルサイン確認、移動・移乗時の転倒・転落への配慮など）				
4	経過記録の記載について指導したか（通常SOAP方式）。				
5	事例の変化について、その要因と対応を適切に説明できるよう指導したか。				
6	在宅生活（退院後を含む）を考慮した事例あるいは家族への教育計画の立案を指導したか。				

＜1～2週目＞

＜3～4週目＞

様式3（OT）

実習モニタリングチェックシート

・**「実習生に対するオリエンテーションが終了し事例に関する指導を開始したとき」から4週間**を実習モニタリング期間とします。
・第2回提出時（実習モニタリング2週目終了時（3日以内））ならびに第3回提出時（実習モニタリング4週目終了時（3日以内））に提出してください。

【記入方法】
・下記の事項の実施状況について、該当週の**全ての欄**に、下記にしたがって記入してください。

○：十分に行った　△：行ったが不十分だった　×：できなかった　／（斜線）：必要なかった

・コメント欄には、不十分だった理由、指導内容および実習生対応における工夫点、実習生の反応などを記載してください。

勤務先名　：

受講者氏名：　　OJT指導者氏名：

実習期間　：　　年　　月　　日（　　）～　　月　　日（　　）（　　週間）

モニタリング期間：　　年　　月　　日（　　）～　　月　　日（　　）（ 4 週間）

実習目標：

Ⅰ．実習生への指導者の対応について

全実習期間を通して基本となります。この項目は熟読し1週間ごとに振り返って記入してください。

内容	1週目	2週目	3週目	4週目
1　実習生が素直に質問・相談しやすい雰囲気づくりや時間を確保したか。				
2　実習生の疑問等を解決すべく、実習生自身で考えさせるよう教育的・指導的姿勢をもって接したか。				
3　実習生からネガティブな反応があった場合には、「学生本人の問題」と決めつけず、実習環境や養成校の教育内容、指導者自身の指導方法についても目を向けたか。				
4　実習生、指導者、教員間で実習目標や到達度についての共通理解をもてるよう、実習遂行状況の共有に努めたか。				
5　実習生を理解し、実習生が意欲、積極性を引き出すような指導・促しをしたか。				

＜1～2週目＞

＜3～4週目＞

様式3（OT）

Ⅱ．事例を実習生に担当させる際の指導について

内容	1週目	2週目	3週目	4週目
1 担当事例の情報について、処方箋・カルテを用いて事前に提示したか。				
2 必要な情報収集について、助言したか。				
3 担当事例への介入時間を確認したか。				
4 事例のリハ室への送迎について、その方法や手段を説明したか。				
5 事例に実習生が担当することへの同意を得たか。 （全面的に指導者が責任を持つことを説明するとともに、紙面で得ることが望ましい）				
6 実習生を担当事例に紹介したか。				

＜1～2週目＞

＜3～4週目＞

Ⅲ．作業療法評価の実施に対する指導について

内容	1週目	2週目	3週目	4週目
1 カルテからの情報収集について、方法や内容など具体的に指導したか。				
2 本人及び家族からの情報収集について、具体的に指導したか。				
3 他職種（主治医、看護師、PT、ST、MSW、PSW等）からの情報収集について具体的に指導したか。				
4 作業療法における検査・測定等の項目抽出について指導したか。				
5 作業療法における検査・測定等の実施方法について指導したか。				
6 初期評価の実施期間（3日～5日程度）について指導したか。				
7 ICFに準拠した形で患者の全体像を把握するように指導したか。				
8 各評価結果の統合と解釈について指導したか。				
9 問題点の焦点化について指導したか。				
10 短期目標・長期目標の内容、期間などについて、具体的に指導したか。				

＜1～2週目＞

＜3～4週目＞

様式3（OT）

Ⅳ. 作業療法実施に対する指導について（リスク管理含む）

	内容	1週目	2週目	3週目	4週目
1	当面の短期目標達成のための作業療法プログラムを考慮し、作業療法計画の立案を指導したか。				
2	作業療法プログラムの実施順序と時間配分について指導したか。				
3	作業療法を実施する上で必要となるリスク管理について、指導したか。 （例：バイタルサイン確認、移動・移乗時の転倒・転落への配慮など）				
4	経過記録の記載について指導したか（通常SOAP方式）。				
5	事例の変化について、その要因と対応を適切に説明できるよう指導したか。				
6	在宅生活（退院後を含む）を考慮した事例あるいは家族への教育計画の立案を指導したか。				

＜1～2週目＞

＜3～4週目＞

様式4−1

OJT・実習モニタリングコメント記載表（1～2週目）

・実習モニタリング1週目終了後及び2週目終了後に受講者がコメントを記載し、OJT指導者と状況を共有し、それをふまえて
　OJT指導者よりコメントを記載してもらってください。（1週終了毎に行うこと）
・本シートは、第2回提出時（実習モニタリング2週目終了時（3日以内））に提出してください。
・提出後、本学担当教員よりコメントとともに概ね1週間以内に返却されます。

勤務先名：　　受講者名：

OJT指導者名：　　担当教員名：

＜第1週目＞　　年　　月　　日（　　）～　　月　　日（　　）

受講者コメント（記載日：　　月　　日）

OJT指導者コメント（記載日：　　月　　日）

＜第2週目＞　　年　　月　　日（　　）～　　月　　日（　　）

受講者コメント（記載日：　　月　　日）

OJT指導者コメント（記載日：　　月　　日）

＜教員コメント＞（記載日：　　月　　日）

様式4−2

OJT・実習モニタリングコメント記載表（3～4週目）

・実習モニタリング3週目終了後及び4週目終了後に受講者がコメントを記載し、OJT指導者と状況を共有し、それをふまえて
　OJT指導者よりコメントを記載してもらってください。（1週終了毎に行うこと）
・本シートは、第3回提出時（実習モニタリング4週目終了時（3日以内））に提出してください。
・提出後、本学担当教員よりコメントとともに概ね1週間以内に返却されます。

勤務先名：　　受講者名：

OJT指導者名：　　担当教員名：

＜第3週目＞　　年　　月　　日（　　）～　　月　　日（　　）

受講者コメント（記載日：　　月　　日）

OJT指導者コメント（記載日：　　月　　日）

＜第4週目＞　　年　　月　　日（　　）～　　月　　日（　　）

受講者コメント（記載日：　　月　　日）

OJT指導者コメント（記載日：　　月　　日）

＜教員コメント＞（記載日：　　月　　日）

様式5

臨床実習指導に対する自己評価表

勤務先名　：

受講者氏名：

記載日　　：　　年　　月　　日

・本自己評価表は、実習モニタリング期間が終了し，本学教員から様式４が返却後に臨床実習指導を振り返り、あてはまるところに〇をつけてください。
・下の空欄には、実習全体を振り返り、難しかった点、悩んだ点、良かった点、疑問点、コメントなど自由にご記載ください。
・第４回提出時（担当教員より様式４－２返却後１週間以内）に提出してください。

項目	自己評価		
1．実習の学習目標についての説明を行ったか	十分	不十分	できなかった
2．実習はスケジュール通りに行うことができたか	十分	不十分	できなかった
3．実習施設の指導体制は十分であったか	十分	不十分	できなかった
4．臨床で必要な態度・資質の指導は十分に行ったか	十分	不十分	できなかった
5．臨床で要求される知識・思考についての指導は十分に行ったか	十分	不十分	できなかった
6．理学／作業療法技術の指導は十分に行ったか	十分	不十分	できなかった
7．学生を理解し尊重することができていたか	十分	不十分	できなかった
8．学生が質問しやすい雰囲気をつくることができたか	十分	不十分	できなかった
9．学生の質問・相談に適切に対処できたか	十分	不十分	できなかった
10．理学／作業療法全般において積極的に対象者との関わりを提供できたか	十分	不十分	できなかった
11．学生を指導するための専門的知識が豊富で論理的であったか	十分	不十分	できなかった
12．指導者は臨床の専門家として模範的であったか	十分	不十分	できなかった
13．学生の知的好奇心を刺激するような指導ができたか	十分	不十分	できなかった
14．学生が実施した評価・治療および提出物のチェックをしたか	十分	不十分	できなかった
15．学生にとって満足な実習内容であったか	十分	不十分	できなかった

平成29 年度地域包括ケア人材養成コース 実習様式

地域包括ケア人材養成コース見学実習の記録

※2 施設の見学実習が終了後、1 週間以内にメールで提出してください。

氏名：

見学施設名：

1．見学した内容について記してください。

2．見学施設と所属先との間で連携する際の考えをまとめてください。

必須マネジメント実習（介護予防・健康づくり）

受講者氏名

会場名

・参加した教室の特徴・印象等について、記載してください。

	体験・実践した内容（評価・運動指導等）	感想
1回目		

	体験・実践した内容（評価・運動指導等）	感想
２回目		

・介護予防・健康づくりにおける評価・運動指導のポイントや必要な視点についての考えを記載してください。

マネジメント実習（地域ケア会議・サービス担当者会議）

受講者氏名

包括名・事業所名　　実習日　平成　年　月　日

＜事例＞

年齢：　性別：　疾病障害名：

介護に至った状況：

要介護状態区分	要支援1　・　要支援2　・　要介護1　・　要介護2　・　要介護3　・　要介護4　・　要介護5
利用者及び家族の生活に対する意向	
総合的な援助の方針	

生活機能の分析	心身機能・身体構造	活動と参加	環境因子	個人因子
否定的側面				
肯定的側面				
予後予測				
分析のまとめと解決すべき課題				

生活行為向上のためのプログラム

生活行為向上の具体的な目標	

		基本的プログラム	応用的プログラム	社会適応プログラム
達成のためのプログラム				
いつ・どこで・誰が支援して行うか	本人			
	家族			
	支援者			

上記、生活機能の分析及びプログラムについての説明（フィードバック）を受けました。

実習先名：　署名：　㊞

平成26年度事業カレンダー

9月	課題解決型高度医療人材養成プログラム推進委員会の設置及び事務教職員の配置
10月	教職員の募集開始
12月	第1回課題解決型高度医療人材養成プログラム推進委員会の開催
12月	第1回長崎臨床実習教育推進委員会の開催
12月	第1回長崎長崎地域包括ケア教育推進委員会の開催
12月	第2回長崎臨床実習教育推進委員会の開催
12月	第2回長崎長崎地域包括ケア教育推進委員会の開催
1月	第2回課題解決型高度医療人材養成プログラム推進委員会の開催
1月	第3回長崎臨床実習教育推進委員会の開催
1月	第3回長崎長崎地域包括ケア教育推進委員会の開催
1月	臨床実習の課題分析のための調査実施
1月	地域包括ケアの課題分析のための調査実施
1月	ホームページの立ち上げ
2月	第4回長崎長崎地域包括ケア教育推進委員会の開催（ワーキング）
2月	臨床実習ならびに地域包括ケア課題分析の調査結果をホームページに公表
3月	キックオフシンポジウムの開催
3月	大阪府立大学・茨城県立健康プラザ・茨城県立大学・慶應義塾大学病院への視察
3月	課題解決型高度医療人材養成プログラム評価委員会の開催

平成27年度事業カレンダー

4月	課題解決型高度医療人材養成プログラム推進委員会の開催（平成27年度事業の確認） :進捗状況確認のため、毎月開催することが決定
4月	チーム医療実践教育・臨床実習推進プログラムにおける改訂及びカリキュラムの確認
4月	チーム医療実践教育・臨床実習推進プログラムにおけるカリキュラムの運用開始（実習セミナー）
4月	第1回長崎臨床実習教育推進委員会の開催
4月	第1回長崎地域包括ケア教育推進委員会の開催
7月	第2回長崎臨床実習教育推進委員会の開催
7月	第2回長崎地域包括ケア教育推進委員会の開催
7月	地域包括ケア人材養成コース推進フォーラムの開催
8月	大阪府立大学への視察
9月	北海道大学への視察
10月	高度リハビリテーション専門職の養成推進フォーラムの開催
10月	チーム医療実践教育・臨床実習推進プログラムにおけるカリキュラムの運用開始（共修科目）
11月	秋田大学への視察
12月	第3回長崎臨床実習教育推進委員会の開催
1月	第3回長崎地域包括ケア教育推進委員会の開催
1月	臨床指導者養成教育コース受講生の募集開始
3月	課題解決型高度医療人材養成プログラム評価委員会の開催

平成28年度事業カレンダー

4月	課題解決型高度医療人材養成プログラム推進委員会の開催（平成29年度事業の確認） :進捗状況の確認のため毎月開催
4～9月	平成29年度臨床指導者養成教育コースの開講
4月	平成29年度地域包括ケア人材養成コースの募集開始
4月	平成29年度チーム医療実践教育・臨床実習推進プログラムのカリキュラム確認・運用開始
5月	長崎臨床実習教育推進委員会の開催
5月	長崎地域包括ケア教育推進委員会の開催
7月	地域包括ケア人材養成コース推進フォーラムの開催
10月	長崎地域包括ケア教育推進委員会の開催
10～3月	平成29年度地域包括ケア人材養成コースの開講
11月	長崎臨床実習教育推進委員会の開催
11月	臨床指導者養成教育コース推進フォーラムの開催
12月	共同フォーラムの開催（大阪府立大学）
1月	長崎臨床実習教育推進委員会の開催
1月	平成30年度臨床指導者養成教育コースの募集開始
2月	長崎地域包括ケア教育推進委員会の開催
3月	課題解決型高度医療人材養成プログラム評価委員会の開催

長崎大学
NAGASAKI UNIVERSITY